

Ⅱ. 男鹿市の現況と課題

1. 現状・将来見通し

(1) 土地利用

本市は、三方を日本海に面し、市域面積の約 52%が森林、約 20%を農地が占めています。また、入道崎や寒風山などの景勝地を含む、市域の約 1/3 が国定公園に指定され、豊かな自然的土地利用となっています。

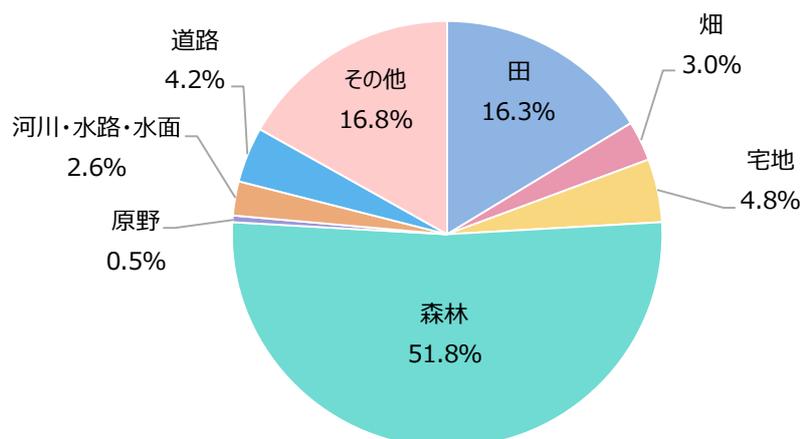
都市的な土地利用では、国道 101 号が本市を縦貫し、潟上市を經由して秋田自動車道「昭和男鹿半島 IC」と接続しています。また、本市の南部沿岸を JR 男鹿線が運行し、4 つの鉄道駅を中心に、住宅や商業施設等による市街地が形成されています。

本市では、商業・産業等経済活動の中心地である船川地域、城下町として栄えた脇本地域、近年国道沿道で市街化が進む船越地域の 3 地域において用途地域を定め、土地利用の規制・誘導、道路・公園・下水道等の都市インフラ整備により、良好な市街地を形成してきました。

主要な商業地は、船川地域の男鹿駅周辺、船越地域の国道 101 号沿道に形成されています。特に、船川地域では、男鹿駅周辺の整備や中心市街地における賑わいづくり、既存商店街の振興や空き店舗の利活用を推進することで、新たな人の流れを生み、賑わい溢れる商店街づくりを推進しています。また、船越地域では、国道沿道の商業施設の拡充や、子育て・教育施設の整備に伴い宅地開発が進み、利便性が高い新たな市街地形成が見られます。

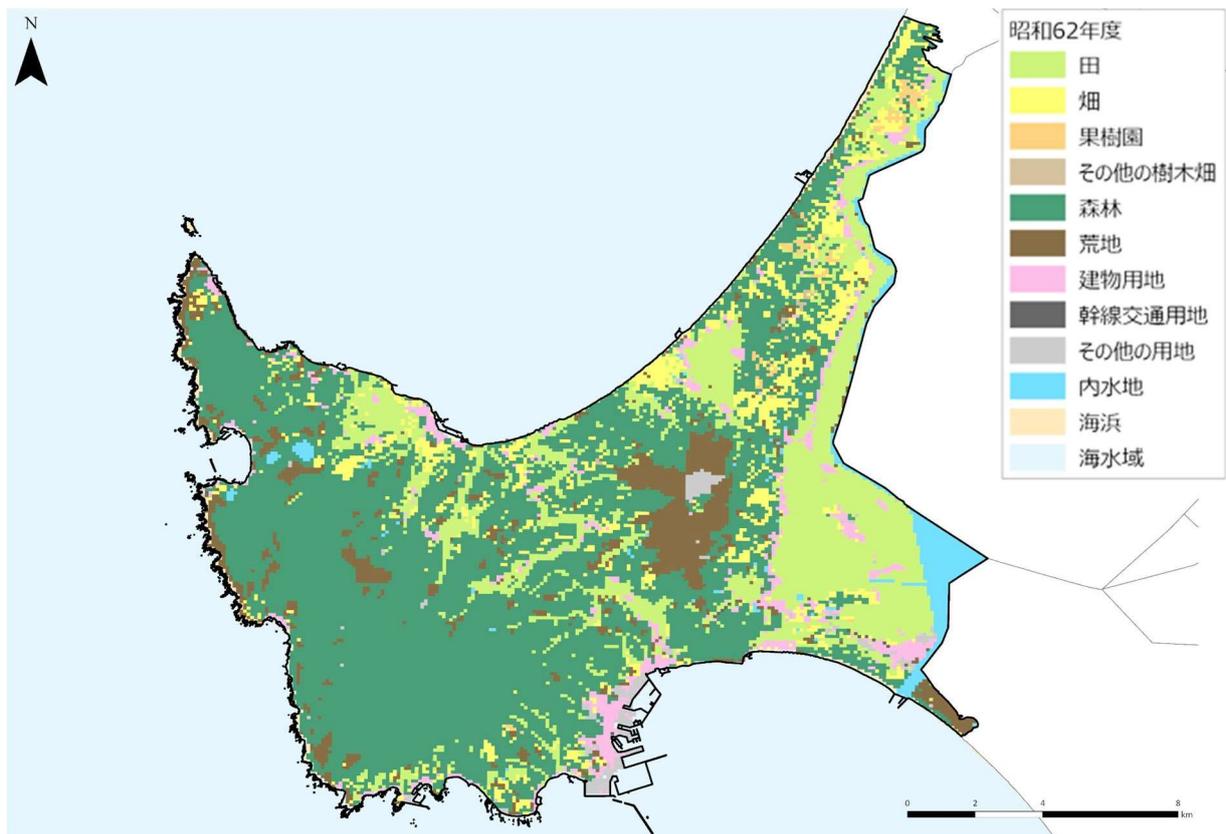
工業地は、船川港港湾地区や船越地域等を中心に形成されています。船川港では、使用されていない 1ha を超える産業用地が点在しており、船川港港湾ビジョンに基づき、港湾機能の強化、地域産業の振興、新エネルギー・再生可能エネルギー関連事業の誘致や支援等が求められています。

椿地域、戸賀地域、北浦地域、男鹿中地域、五里合地域、若美地域では、豊かな自然環境や優良農地との共生が見られます。



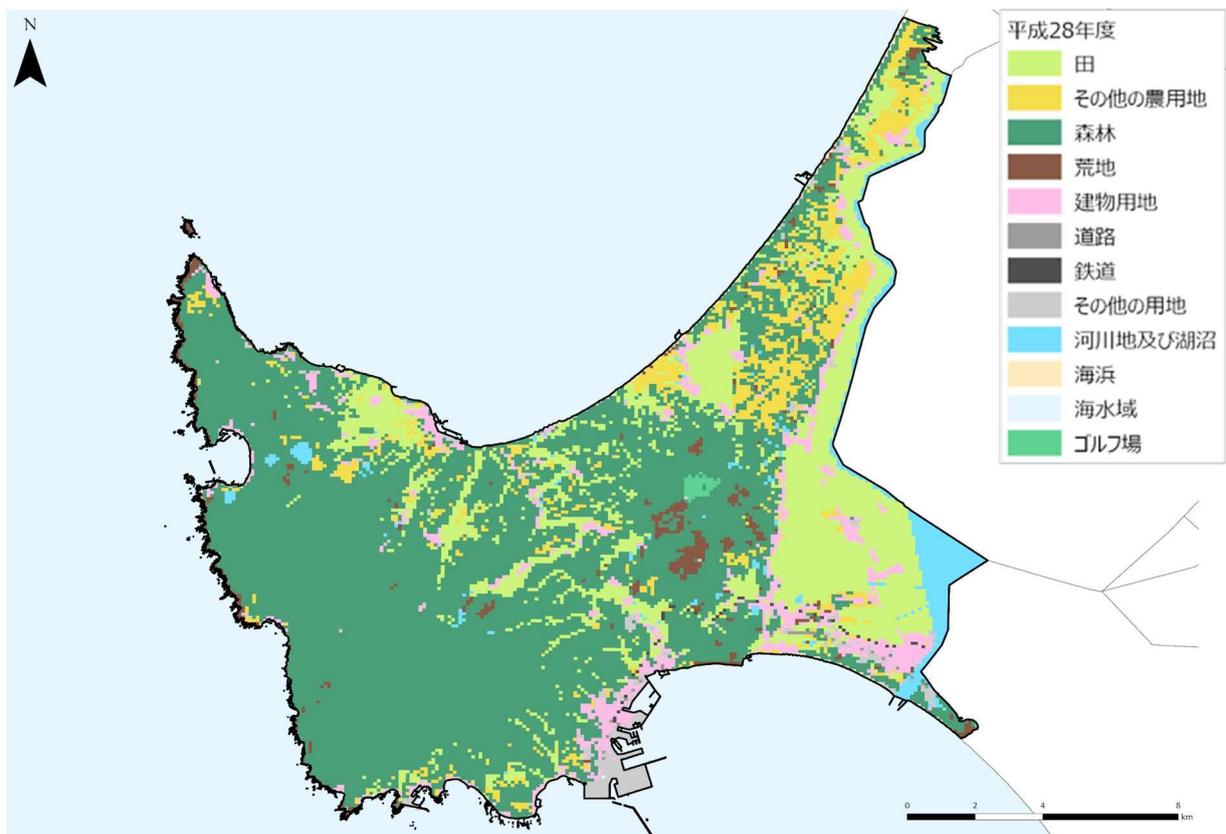
〔資料：令和 4 年版市勢統計要覧〕

図. 土地利用状況の構成比



〔資料：国土数値情報〕

図. 土地利用現況図（昭和 62 年）



〔資料：国土数値情報〕

図. 土地利用現況図（平成 28 年）

(2) 空き家等

2018年(平成30年)の本市の住宅総数は13,720戸であり、この内、「二次的住宅」「賃貸用の住宅」及び「売却用の住宅」を除いた空き家(「その他の住宅」)は2,170戸、空き家率は15.8%となっています。

「その他の住宅」に限定した2018年(平成30年)の空き家率は、県全体の数字である8.7%を大幅に上回っており、2013年(平成25年)と比較すると、空き家数は350戸増加しています。

「男鹿市空家等対策計画」では、対策空き家は、本市全域で1,473件(Aランク※:17件、Bランク:167件、Cランク:667件、Dランク:622件)となっています。地域別では、船川地域が最も多く、続いて北浦、若美地域となっています。船越地域は人口が多いものの、新興住宅地の開発が進んでおり空き家が少ない状況です。今後もこのような傾向は続く見通しです。

表. 住宅総数と空き家の現状

(単位:戸)

	総数	居住世帯あり	居住世帯なし	一時現在者のみ	空き家	空き家			建築中	空き家率
						二次的住宅	賃貸用・売却用の住宅	その他の住宅		
2013年	13,490	11,340	2,150	20	2,120	—	300	1,820	0	13.5%
2018年	13,720	11,060	2,670	30	2,640	20	450	2,170	—	15.8%

[資料:住宅・土地統計調査]

表. 地域別空家等の状況

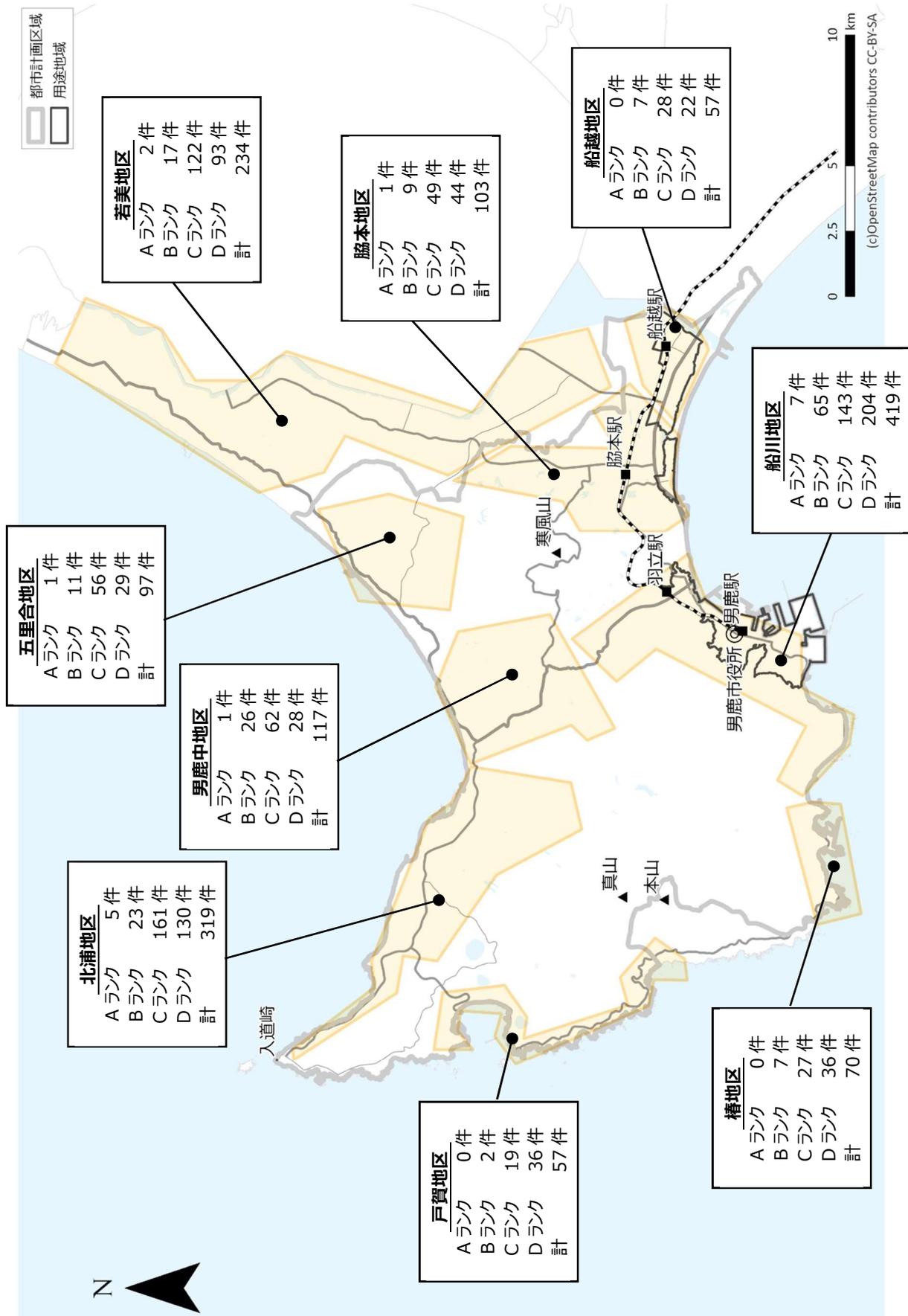
(単位:件)

危険度	ランク	船川	椿	脇本	船越	五里合	男鹿中	北浦	戸賀	若美	合計
高 ↑ ↓ 低	A	7	0	1	0	1	1	5	0	2	17
	B	65	7	9	7	11	26	23	2	17	167
	C	143	27	49	28	56	62	161	19	122	667
	D	204	36	44	22	29	28	130	36	93	622
合計		419	70	103	57	97	117	319	57	234	1,473

[資料:男鹿市空家等対策計画、2023年8月末現在]

※危険度のランク

- A 近隣に被害を及ぼす可能性が高く、除却すべき空家。
- B 除却もしくは大規模改修が必要な空家。
- C 小規模修繕が必要で、経過観察が必要な空家。
- D 適切な管理がされており、近隣への被害を及ぼす可能性が少ない空家。



〔資料：男鹿市空家等対策計画、2023年8月末現在〕

図. 空き家分布図

(3) 公共公益施設

生活に密着した公共公益施設の分布状況を見ると、中心拠点や地域拠点に位置づけられる船川地域、船越地域、脇本地域にその多くが立地しています。

特に、船川地域には、市庁舎、学校、市民病院、文化施設（図書館、文化会館等）、体育施設等の主要な施設が集積しており、男鹿駅や道の駅おが・オガーレも立地しています。

救急病院である男鹿みなと市民病院は、地域医療の拠点であることから重要性が高く、今後も、市内外との医療・福祉ネットワークの形成を図ります。

市全域において、近年、高齢者等への福祉サービスや子育て支援の充実が見られます。

2023年（令和5年）には、各地域の公民館が地域コミュニティセンターに改編され、地域コミュニティの形成と地域活動への支援が期待されています。

生涯学習や学びなおしに対する要望も高まっていることから、老朽化が見られる施設では、今後のあり方に向けた検討が必要です。一方、各地域に立地する生活サービス施設では利用者数の減少により、廃止やサービス水準の低下が懸念されます。



男鹿みなと市民病院



男鹿市総合体育館



子育てスペース「こっこルーム」



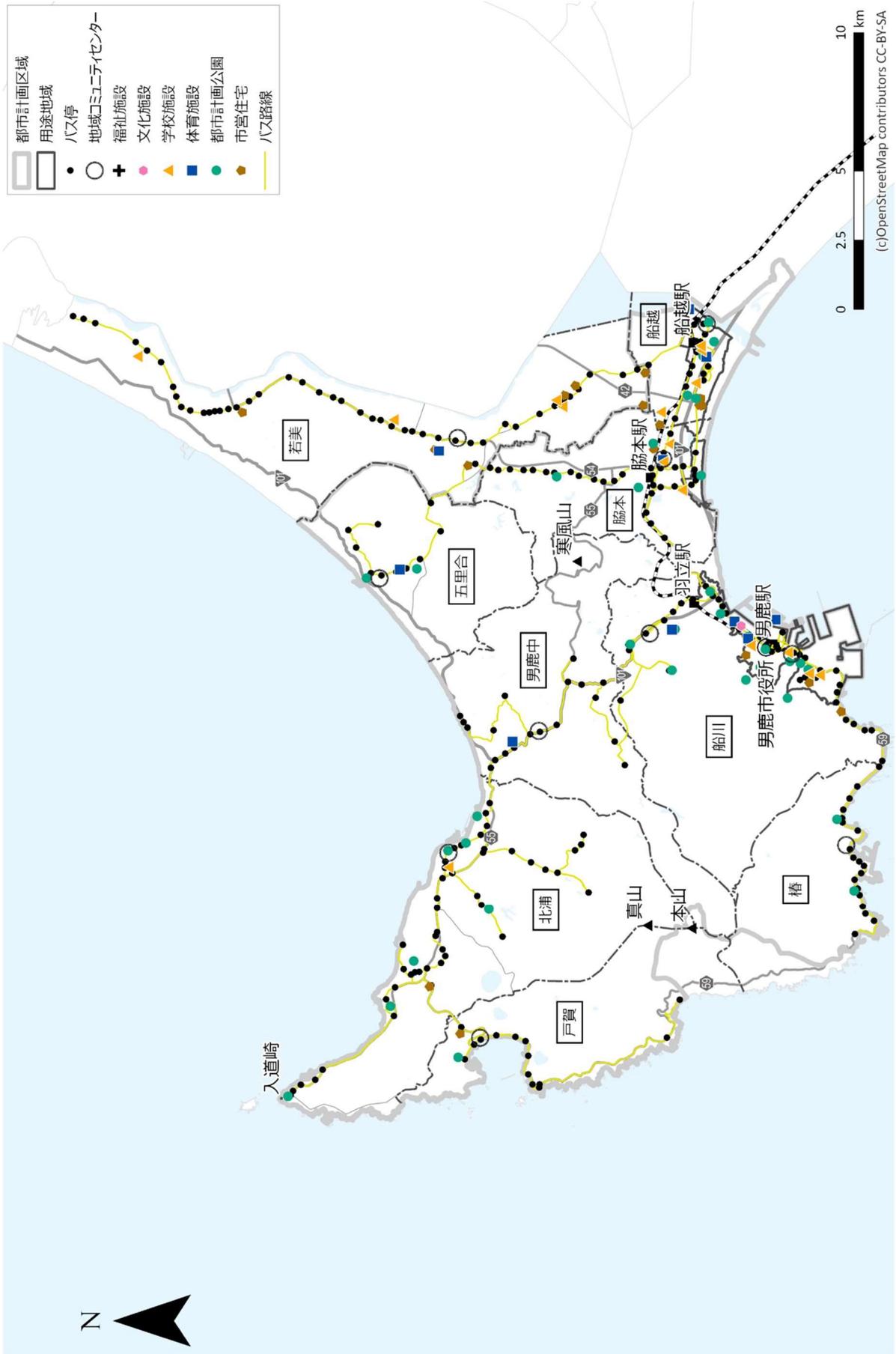
男鹿市立図書館



男鹿市民文化会館

表. 公共公益施設一覧

地域		船川	椿	戸賀	北浦	男鹿中	五里合	脇本	船越	若美
人口(人)		5,645	647	387	2,198	1,036	1,265	3,814	5,438	4,834
公共交通	鉄道駅	○	-	-	-	-	-	○	○	-
	(最寄駅)	男鹿駅	男鹿駅	(男鹿駅) (羽立駅)	羽立駅	羽立駅	脇本駅	脇本駅	船越駅	船越駅 脇本駅
	バス停	○	○	○	○	○	○	○	○	○
分類	行政機能	市役所 公民館	コミュニティ センター	コミュニティ センター	コミュニティ センター	コミュニティ センター	コミュニティ センター	コミュニティ センター	コミュニティ センター	支所 コミュニティ センター
	医療施設	市民病院 個人医院	-	出張 診療所	出張 診療所	-	出張 診療所	個人 医院	個人 医院	個人 医院
	教育施設	小学校 中学校 高等学校	-	-	小学校	-	-	小学校	小学校 中学校 高等学校	小学校
	幼稚園・ 保育園	保育園	-	-	保育園	-	保育園	幼稚園 保育園	保育園	保育園
	文化施設	図書館 ふれあいプラザ 文化会館	-	-	-	-	-	-	-	-
	体育施設	総合体育館 野球場 陸上競技場 テニスコート 球技場 サンワーク男鹿	コミュニティ センターの 付属 体育館	コミュニティ センターの 付属 体育館	コミュニティ センターの 付属 体育館	コミュニティ センターの 付属 体育館	コミュニティ センターの 付属 体育館	体育館 体育館 プール	コミュニティ センターの 付属 体育館	総合 体育館 野球場 スキー場
	観光施設	道の駅 観光案内所 観光施設	観光施設	観光施設	観光施設	観光施設	-	観光施設	観光 案内所 観光施設	観光 案内所
	商業施設	大店舗	-	-	店舗	-	-	大店舗	大店舗	店舗
都市 公園	運動 近隣 街区	街区	街区	街区	街区	街区	近隣 街区	近隣 街区	その他	
本都市計画 マスタープラン での位置づけ	①中心拠点 (その1:船川 地域)	④ 集落地域 (拠り所)	④ 集落地域 (拠り所)	④ 集落地域 (拠り所)	④ 集落地域 (拠り所)	④ 集落地域 (拠り所)	④ 集落地域 (拠り所)	③ 地域拠点	②中心拠 点(その 2:船越 地域)	④ 集落地域 (拠り所)



(c)OpenStreetMap contributors CC-BY-SA

図. 公共公益施設分布図

(4) 都市施設

1) 都市計画道路

都市計画道路は、16路線、38,626 mを都市計画決定しており、3路線が完了、9路線が整備中、4路線は長期未着手、合計16,561 mが整備済みとなっています。既存施設は、老朽化等への対応など、道路機能を持続的に発揮できるよう、維持管理や更新を進めていくことが求められます。

市内の都市計画道路の改良済延長の割合は42.9%で、秋田県水準(66.4%)を下回っています。本市の現状や将来を踏まえ、見直し検討を進めることが必要です。

表. 都市計画道路の整備状況

街路番号	路線名	起点	終点	幅員(m)	車線の数	延長(m)	最終決定年月日及び告示番号	改良済実延長(m)	整備率(%)
3・5・1	内子前野線	男鹿市船越字内子294の1416	男鹿市船越字前野24の5	12	—	750	S56. 4. 1(S36. 3. 25) 男鹿市告示第10号	493	66.0
3・5・2	下谷地船越線	男鹿市脇本脇本字下谷地73	男鹿市船越字船越423	12	—	3,770	S56. 4. 1(S36. 3. 25) 男鹿市告示第10号	—	—
3・1・3	内子杉山線	男鹿市船越字内子294の1437	男鹿市船越字杉山24の2	40	—	630	S57. 4.10(S57. 4.10) 秋田県告示第308号	630	100.0
3・4・4	男鹿臨港線	男鹿市船川港南平沢字明王堂前	男鹿市船越字船越	16	2	12,705	H16. 4.16(S36. 3. 25) 秋田県告示第379号	4,112	32.4
3・4・5	羽立田中線	男鹿市船川港比詰字羽立	男鹿市船川港比詰字大沢田	16.5	2	1,580	H14. 8.27(S61. 2.18) 秋田県告示第580号	161	10.2
3・5・6	羽立線	男鹿市船川港比詰字大巻	男鹿市船川港比詰字二合田9の2	12	—	880	S61. 2.18(S36. 3. 25) 男鹿市告示第9号	60	6.8
3・3・7	男鹿秋田線	男鹿市脇本脇本字横町道上	男鹿市船越字一向	23	4	5,140	H16. 4.16(S45.10.20) 秋田県告示第379号	5,140	100.0
2等大路第1類第1号	税関通線	男鹿市船川港船川字新浜町49	男鹿市船川港船川字元浜町221の1	18	—	136	S40. 6. 2(S36. 3. 25) 建設省告示第1435号	136	100.0
2等大路第2類第1号	船越中央通線	男鹿市船越字本町15の20	男鹿市船越字一向115の18	16	—	846	S36. 3.25(S36. 3.25) 建設省告示第690号	841	99.0
2等大路第3類第1号	新浜町線	男鹿市船川港船川字新浜町13	男鹿市船川港船川字外ヶ沢123	14.5	—	572	S36. 3.25(S25. 5.20) 建設省告示第690号	150	26.2
2等大路第3類第2号	元浜増川線	男鹿市船川港船川字元浜町194	男鹿市船川港増川字宮の下51	12	—	3,008	S36. 3.25(S27. 5. 7) 建設省告示第690号	—	—
2等大路第3類第3号	芦沢増川線	男鹿市船川港船川字化世沢175の11	男鹿市船川港増川字惣屋布17	12	—	1,839	S36. 3.25(S36. 3.25) 建設省告示第690号	—	—
2等大路第3類第4号	男鹿駅前通線	男鹿市船川港船川字新浜町9	男鹿市船川港船川字片田87の1	12	—	640	S51.11.12(S30. 5.21) 男鹿市告示第24号	160	25.0
8・7・1	歩行者自転車専用道路1号	男鹿市船川港比詰字大沢田261	男鹿市船川港船川字柳沢1の7	4	—	5,030	H 6. 3. 7(S53. 3. 1) 男鹿市告示第2号	4,530	90.1
8・7・2	歩行者自転車専用道路2号	男鹿市船川港比詰字羽立	男鹿市船川港比詰字大巻81の1	4	—	750	S53. 3.25(S53. 3. 1) 男鹿市告示第6号	—	—
8・7・3	歩行者自転車専用道路3号	男鹿市船川港金川字姫ヶ沢	男鹿市船川港金川字姫ヶ沢	4	—	350	S58. 9. 8(S58. 9. 8) 男鹿市告示第24号	148	42.3
幹線計		13路線				32,496		11,883	36.6
特殊ア計		3路線				6,130		4,678	76.3
計		16路線				38,626		16,561	42.9

〔資料：令和5年秋田県の都市計画、令和5年3月31日現在〕

2) 都市計画公園

都市計画公園として 38 箇所を都市計画決定しており、そのうち 33 箇所が開設済みです。既存施設は、維持管理や更新を進めていくことが求められます。

一方、5 箇所は、長期未着手であるため、本市の現状や将来を踏まえ、見直し検討を進めることが必要です。

表. 都市計画公園の整備状況①

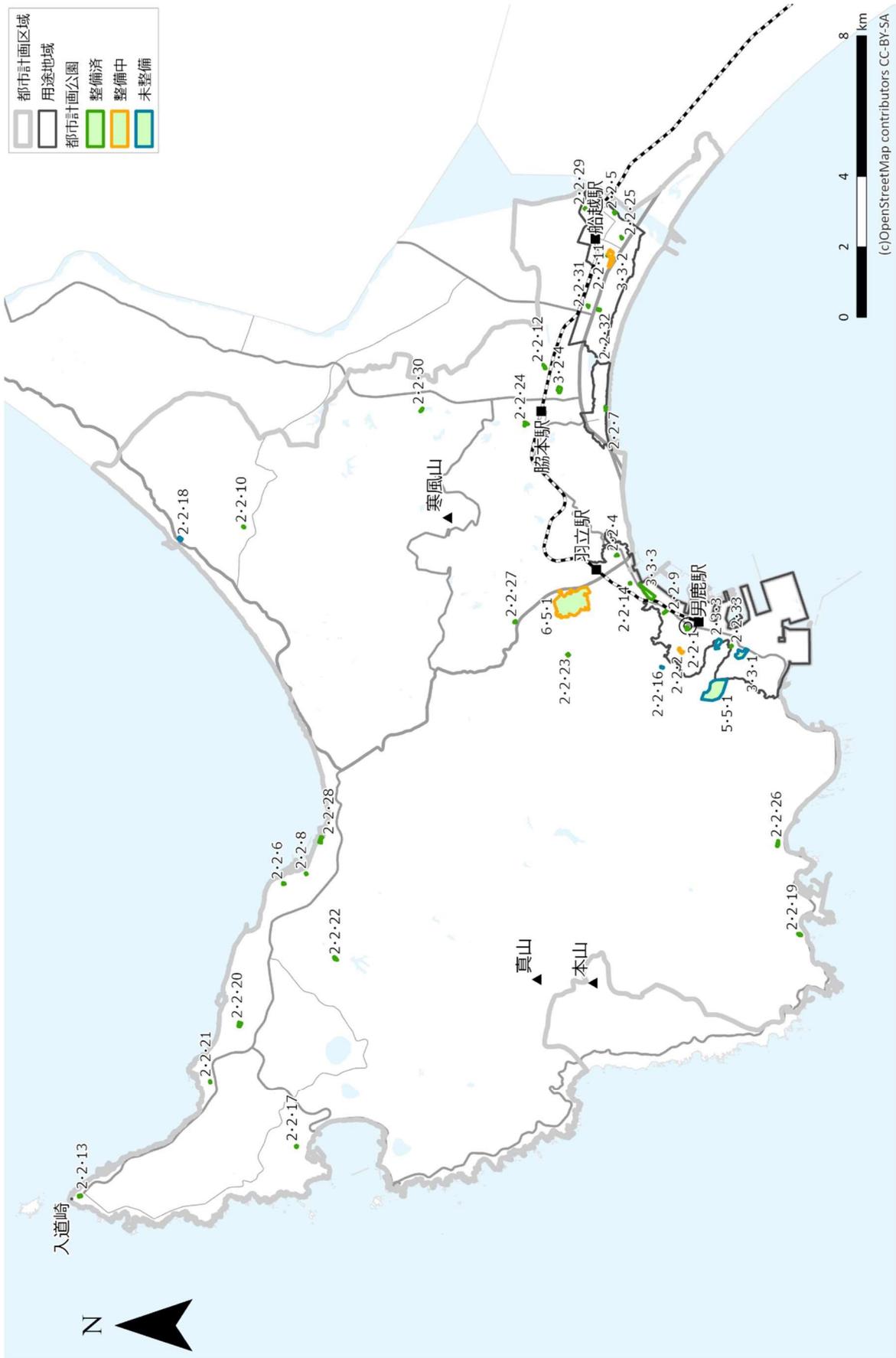
種別	番号	公園名	位置	最終決定年月日 及び告示番号	都市決 定面積 (ha)	開設済 面積 (ha)
街区	2・2・1	泉台街区公園	男鹿市船川港船川字泉台	S54. 9. 1(S36. 3.25) 男鹿市告示第15号	0.39	0.39
街区	2・2・2	西ヶ丘街区公園	男鹿市船川港船川字小沢田	S54. 9. 1(S36. 3.25) 男鹿市告示第15号	0.70	0.14
街区	2・3・3	芦沢街区公園	男鹿市船川港船川字化世沢	S54. 8.28(S36. 3.25) 秋田県告示第669号	1.69	—
街区	2・2・4	羽立街区公園	男鹿市船川港比詰字オノ神	S54. 9. 1(S36. 3.25) 男鹿市告示第15号	0.25	0.25
街区	2・2・5	中町街区公園	男鹿市船越字船越	S54. 9. 1(S51. 3. 8) 男鹿市告示第15号	0.20	0.20
街区	2・2・6	北浦街区公園	男鹿市北浦北浦字山王林	S54. 9. 1(S45. 9.30) 男鹿市告示第15号	0.20	0.20
街区	2・2・7	脇本街区公園	男鹿市脇本脇本字脇本	S54. 9. 1(S47. 8.18) 男鹿市告示第15号	0.22	0.22
街区	2・2・8	新道街区公園	男鹿市北浦北浦字忍田	S54. 9. 1(S48. 1. 5) 男鹿市告示第15号	0.11	0.11
街区	2・2・9	金川街区公園	男鹿市船川港金川字姫ヶ沢	S54. 9. 1(S48. 7.18) 男鹿市告示第15号	0.22	0.22
街区	2・2・10	箱井街区公園	男鹿市五里合箱井字町屋田	S54. 9. 1(S51. 3. 8) 男鹿市告示第15号	0.12	0.12
街区	2・2・11	長沼街区公園	男鹿市船越字内子	S54. 9. 1(S51. 3. 8) 男鹿市告示第15号	0.14	0.14
街区	2・2・12	飯の町街区公園	男鹿市脇本脇本字飯の町	S54. 9. 1(S51. 3. 8) 男鹿市告示第15号	0.32	0.32
街区	2・2・13	入道崎街区公園	男鹿市北浦入道崎字家の上	S54. 9. 1(S51. 3. 8) 男鹿市告示第15号	0.25	0.25
街区	2・2・14	金川台街区公園	男鹿市船川港金川字金川台	S54. 9. 1(S51. 3. 8) 男鹿市告示第15号	0.14	0.14
街区	2・2・16	北町街区公園	男鹿市船川港船川字小沢田	S54. 9. 1(S51. 3. 8) 男鹿市告示第15号	0.19	—
街区	2・2・17	戸賀街区公園	男鹿市戸賀戸賀字滝沢	S54. 3.26(S54. 3.26) 男鹿市告示第5号	0.14	0.14
街区	2・2・18	神谷街区公園	男鹿市五里合神谷字長者森	S55. 1.23(S55. 1.23) 男鹿市告示第1号	0.42	—
街区	2・2・19	双六街区公園	男鹿市船川港双六字打越	S55. 1.23(S55. 1.23) 男鹿市告示第1号	0.35	0.35
街区	2・2・20	湯本街区公園	男鹿市北浦湯本字中里	S55. 1.23(S55. 1.23) 男鹿市告示第1号	0.57	0.57
街区	2・2・21	西黒沢街区公園	男鹿市北浦西黒沢字鳥ノ久保	S56. 4. 1(S56. 4. 1) 男鹿市告示第9号	0.14	0.14
街区	2・2・22	西水口街区公園	男鹿市北浦西水口字櫛坂	S56. 4. 1(S56. 4. 1) 男鹿市告示第9号	0.33	0.33
街区	2・2・23	馬生目街区公園	男鹿市船川港仁井山字屋布台	S56. 4. 1(S56. 4. 1) 男鹿市告示第9号	0.19	0.19
街区	2・2・24	大倉街区公園	男鹿市脇本富永字大倉	S56. 4. 1(S56. 4. 1) 男鹿市告示第9号	0.49	0.49

[資料：令和 5 年秋田県の都市計画、令和 5 年 3 月 31 日現在]

表. 都市計画公園の整備状況②

種別	番号	公園名	位置	最終決定年月日 及び告示番号	都市決 定面積 (ha)	開設済 面積 (ha)
街区	2・2・25	一向街区公園	男鹿市船越字一向	S56. 4. 1(S56. 4. 1) 男鹿市告示第9号	0.14	0.14
街区	2・2・26	台島街区公園	男鹿市船川港台島字木戸口	S56.12.14(S56.12.14) 男鹿市告示第25号	0.43	0.43
街区	2・2・27	仁井山街区公園	男鹿市船川港仁井山字谷地端	H 7. 2.23(S56.12.14) 男鹿市告示第3号	0.23	0.23
街区	2・2・28	相川街区公園	男鹿市北浦相川字冷水	S56.12.14(S56.12.14) 男鹿市告示第25号	0.65	0.65
街区	2・2・29	八郎谷地街区公園	男鹿市船越字八郎谷地	S58. 9. 8(S58. 9. 8) 男鹿市告示第25号	0.18	0.18
街区	2・2・30	樽沢街区公園	男鹿市脇本樽沢字刈沢	S61. 2.18(S61. 2.18) 男鹿市告示第11号	0.25	0.25
街区	2・2・31	前野街区公園	男鹿市船越字前野ほか	S63. 3.15(S63. 3.15) 男鹿市告示第8号	0.19	0.19
街区	2・2・32	内子街区公園	男鹿市船越字内子	S63. 3.15(S63. 3.15) 男鹿市告示第8号	0.29	0.29
街区	2・2・33	芦沢南街区公園	男鹿市船川港船川字化世沢	H11. 2.24(H11. 2.24) 男鹿市告示第7号	0.13	0.13
近隣	3・3・1	船川南近隣公園	男鹿市船川港船川字芦沢	H 1. 7. 5(S36. 3.25) 男鹿市告示第26号	3.01	—
近隣	3・3・2	船越近隣公園	男鹿市船越字内子	S54. 8.28(S36. 3.25) 秋田県告示第669号	2.77	2.73
近隣	3・3・3	金川近隣公園	男鹿市船川港船川字海岸通り2号	S54. 8.28(S48. 6.23) 秋田県告示第669号	3.10	3.10
近隣	3・2・4	脇本近隣公園	男鹿市脇本脇本字前野	H17. 6.14(H17. 6.14) 男鹿市告示第38号	0.80	0.80
総合	5・5・1	男鹿総合公園	男鹿市船川港船川字外ヶ沢・ 南平沢字平の沢・増川字滝の沢	S54. 8.28(S36. 3.25) 秋田県告示第669号	15.00	—
運動	6・5・1	男鹿総合運動公園	男鹿市船川港比詰字大沢田・ 金川字上小友・金川字槻木沢	H14. 8.23(S49. 2.19) 秋田県告示第566号	34.00	33.20
街区公園計			32箇所		10.26	7.40
近隣公園計			4箇所		9.68	6.63
総合公園計			1箇所		15.00	—
運動公園計			1箇所		34.00	33.20
合計			38箇所		68.94	47.23

〔資料：令和5年秋田県の都市計画、令和5年3月31日現在〕



〔資料：令和4年秋田県の都市計画、令和4年3月31日現在〕
図. 都市計画公園の整備状況

3) 上水道

上水道給水普及率は2022年度（令和4年度）で97.8%である一方、維持管理、施設更新の転換期を迎えています。根木浄水場を高度浄水施設へ更新しており、引き続き、滝の頭水源浄水場、若美浄水場など各施設の老朽化した設備について、その機能を存続していくため、コスト縮減を図りながら計画的な維持管理及び更新が必要です。

表. 上水道の給水状況の推移

区分	給水戸数 (戸)	給水普及率 (%)	年間総有収水量 (m ³)	1日平均給水量 (m ³)	1人1日平均給水量 (ℓ)
令和2年度	11,807	97.9	2,806,721	7,690	302
令和3年度	11,650	97.9	2,834,903	7,767	314
令和4年度	11,547	97.8	2,805,756	7,687	321

〔資料：企業局〕

4) 公共下水道、都市下水路

公共下水道の普及率は2022年度（令和4年度）で56.0%^{*}となっています。

また、都市下水路の計画決定延長が870mに対し、供用済み延長は709mとなっています。今後は、その機能を存続していくため、コスト縮減を図りながら計画的な維持管理及び更新が必要です。

※公共下水道普及率の算出について

令和4年度の普及率（56.0%）＝水洗化可能人口（13,726人）／住民基本台帳に基づく人口（24,511人）×100

表. 公共下水道の事業実績

下水道名	排水区域 (ha)	幹線管渠延長 (m)	ポンプ場箇所及び面積 (m ²)	処理場	供用 (ha)
男鹿市 公共下水道	623	—	2ヶ所 2,900m ²	秋田湾・雄物川流域下水道 (臨海処理区)に接続	587.05

当初決定年月日：昭和53年3月1日 市告示第7号

最終決定年月日：令和2年10月2日 市告示第3号

〔資料：令和5年秋田県の都市計画、令和5年3月31日現在〕

表. 都市下水路の供用済み延長

下水路名	最終決定年月日 及び告示番号	計画決定		供用	
		集水区域 (ha)	管渠 (m)	集水区域 (ha)	管渠 (m)
北浦都市下水路	S63. 3.15(S34. 3.10) 男鹿市告示第7号	33	290	33	293
湯本都市下水路	S63. 3.15(S45. 2.27) 男鹿市告示第7号	53	580	53	416
計	2都市下水路	86	870	86	709

〔資料：令和5年秋田県の都市計画、令和5年3月31日現在〕

5) 都市ガス

市内及び大湯村に導管が敷設され、その普及率は2022年度（令和4年度）で68.4%※となっています。生活様式の変化や他燃料との競合などにより需要が落ち込むことが想定されます。

今後は、設備の老朽化が進行していくことから、コスト縮減を図りながら計画的な維持管理及び更新が必要です。

※都市ガス普及率の算出について

$$\text{令和4年度の普及率 (68.4\%)} = \text{供給戸数 (9,082 戸)} / \text{供給区域内戸数 (13,280 戸)} \times 100$$

表. 都市ガスの供給戸数と販売量

単位：戸、m³

区分	総数		家庭用		商業用		工業用		その他	
	供給戸数	販売量	供給戸数	販売量	供給戸数	販売量	供給戸数	販売量	供給戸数	販売量
令和2年度	9,460	2,526,504	9,005	1,109,767	208	399,800	1	571	246	1,016,366
令和3年度	9,243	2,482,217	8,793	1,071,663	203	390,185	1	891	246	1,019,478
令和4年度	9,082	2,426,232	8,639	1,027,458	199	400,451	1	624	243	997,699

〔資料：企業局〕

6) その他の都市施設

その他の都市施設については、1981～1987年度（昭和56～62年度）間に整備されています。今後は、老朽化に対応するため、コスト縮減を図りながら計画的な維持管理及び更新が必要です。また、市場等の都市施設は、その機能を存続していくため、計画的な維持管理が必要です。

表. その他の都市施設整備状況

分類	施設名	位置	決定面積 (ha)	処理方式	処理能力	完了面積 (ha)	告示
汚物処理場	第1号男鹿地区汚物処理場	男鹿市船越字一向	1.9	高負荷脱窒素処理 + 高度処理	105kl/日	1.9	S51. 5.24(S51. 5.24) 男鹿市告示第9号
ごみ焼却場	第1号男鹿清掃センター	男鹿市船川港仁井山字大石台	0.9	准連続燃焼式	60t/日	0.9	S56. 4. 1(S56. 4. 1) 男鹿市告示第8号

分類	施設名	位置	決定面積 (ha)	供給能力	完了面積 (ha)	告示
市場	男鹿市北部卸売市場	男鹿市北浦北浦字忍田	約0.39	水産物 4,171t/年	約0.2	S58.12. 9(S58.12. 9) 男鹿市告示第31号
	男鹿市南部卸売市場	男鹿市船川港双六字館山	約0.46	水産物 2,073t/年	約0.2	S58.12. 9(S58.12. 9) 男鹿市告示第31号

分類	施設名	位置	決定面積 (ha)	火葬能力 (体/日)	完了面積 (ha)	告示
火葬場	男鹿市斎場	男鹿市脇本田谷沢字要沢	0.6	6体/日	0.6	S61. 2.18(S61. 2.18) 男鹿市告示第8号

〔資料：令和5年秋田県の都市計画、令和5年3月31日現在〕

(5) 都市交通

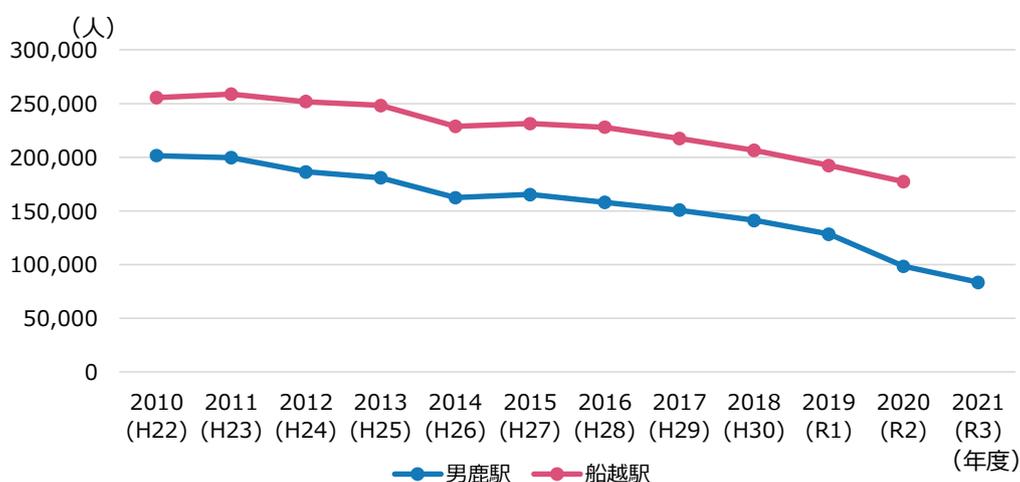
本市の公共交通は、鉄道（JR 男鹿線）、路線バス（10 路線）、観光タクシー（なまはげシャトル）、タクシー事業者（6 社）、患者輸送バス等（7 機関）が運行されています。

【鉄道】

JR 各駅の乗車人員は、男鹿駅では 2021 年度（令和 3 年度）の年間利用者数 83,585 人と、前年度から 14,965 人減少しています。船越駅では 2020 年度（令和 2 年度）の年間利用者数 177,390 人と前年度から 14,965 人減少し、2021 年度（令和 3 年度）から無人駅となっています。

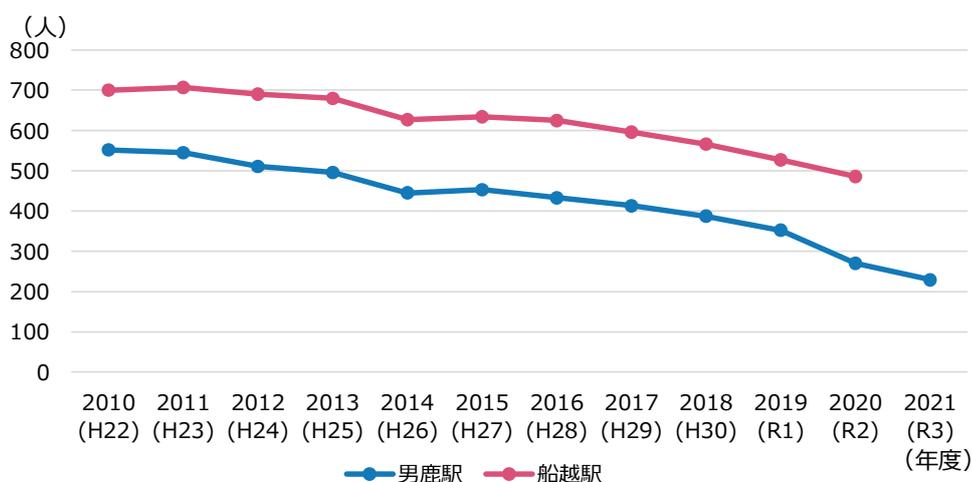
今後は、人口減少に伴う利用者数の減少により、公共交通の路線廃止や運行本数の減少等が懸念されます。また、自家用車を運転できない高齢者の外出機会の減少も予想されます。

少子高齢化の進行や運転免許返納者の増加などにより、通院・通学・買い物などの日常の移動手段としての鉄道の需要が高まっています。



〔資料：市勢統計要覧〕

図. JR 駅の年間乗車人員の推移



〔資料：市勢統計要覧〕

図. JR 駅の一日常乗車人員の推移

※船越駅は、2021 年度（令和 3 年度）以降無人化により乗車券発行調査を行っていない。

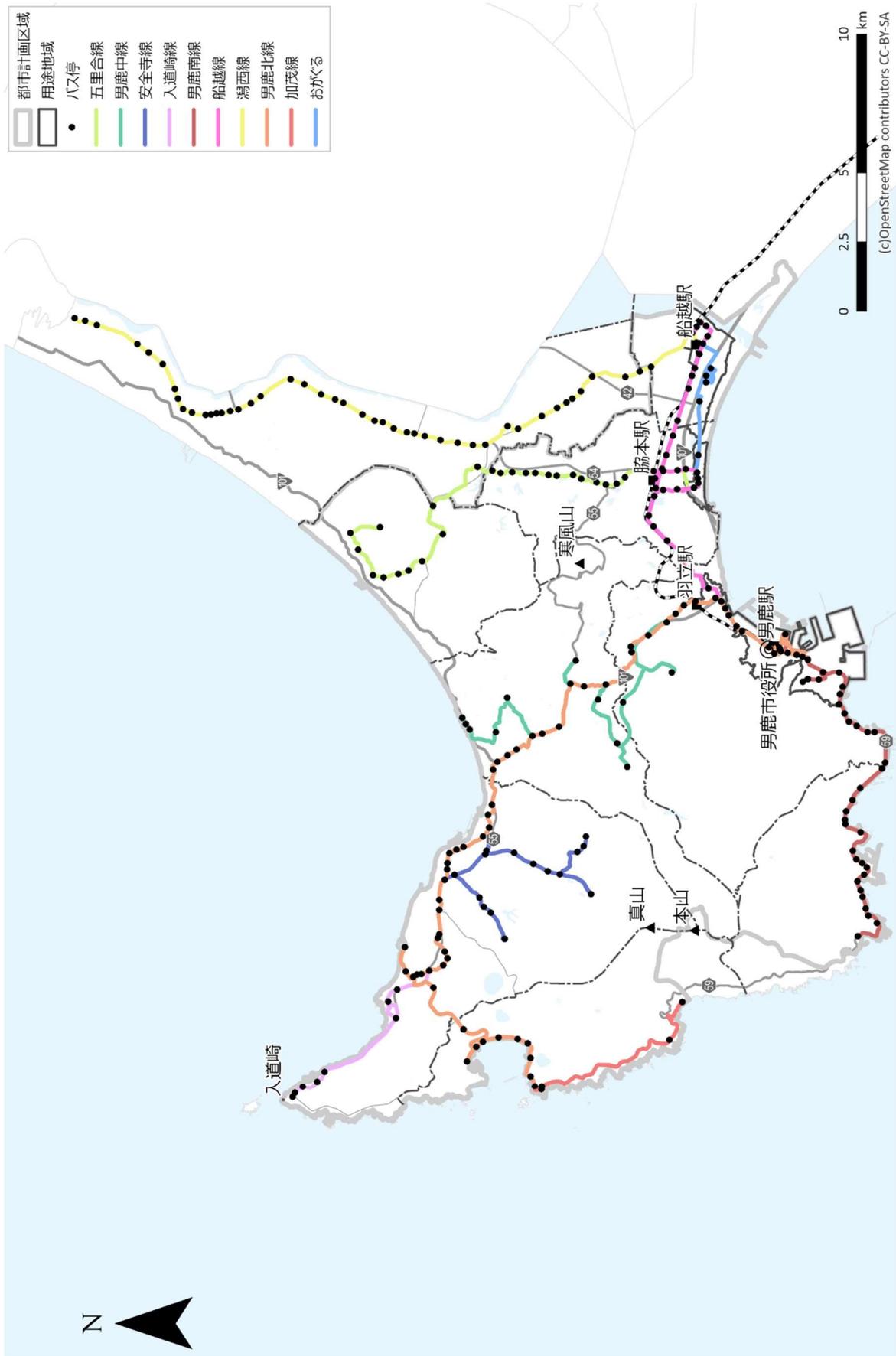
【路線バス】

市内の路線バスは、市営で 10 路線を運行しています。

これまでは、交通結節点である男鹿駅を中心として JR 男鹿線の発着等により、路線バスの運行路線が組まれていましたが、現在は地域の交通需要に合わせて運行路線が設定されています。路線バス全体の利用者は約 10 万人で横ばい傾向にありますが、今後は、高齢者の運転免許返納の増加などにより、通院や買い物など、日常の移動手段としての路線バスの需要が高まることが想定されます。このため、路線バスの維持管理や存続に向けたさらなる取組みが求められます。

表. 路線バスの運行概要（令和 5 年時点）

路線名	運行経路 (主な経由地)	運行 方法	運行本数		運行事業者
			平日	休日	
① 五里合線	中石～脇本駅前～ みなと市民病院	定時 定路線	13	7	男鹿市 (秋田中央トランスポート(株))
② 男鹿中線	浜間口下丁～男鹿中公民館 ～みなと市民病院	一部 予約式	4	0	男鹿市 (浮田産業交通(株)北浦営業所)
③ 安全寺線	安全寺上丁～真山～ ニコット前	一部 予約式	7	7	男鹿市 (浮田産業交通(株)北浦営業所)
④ 入道崎線	入道崎～西黒沢入口～ 別邸つばき前	一部 予約式	12	7	男鹿市(株)船川タクシー)
⑤ 男鹿南線	門前～男鹿駅前～ みなと市民病院	定時 定路線	12	6	男鹿市 (秋田中央トランスポート(株))
⑥ 船越線	船越駅前～脇本駅前～ みなと市民病院	定時 定路線	10	5	男鹿市 (秋田中央トランスポート(株))
⑦ 潟西線	船越駅前～若美支所～ 下五明光	定時 定路線	10	5	男鹿市(秋田観光バス(株))
⑧ 男鹿北線	みなと市民病院～北浦～ 男鹿水族館前	定時 定路線	14	8	男鹿市 (浮田産業交通(株)北浦営業所)
⑨ 加茂線	加茂～桜島～男鹿水族館前	予約式	7	5	男鹿市 (浮田産業交通(株)北浦営業所)
⑩ おがぐる (2 路線)	船越駅前～なまはげモール～ みなと市民病院	定時 定路線	16	6	男鹿市 (秋田中央トランスポート(株)、 (株)船川タクシー)



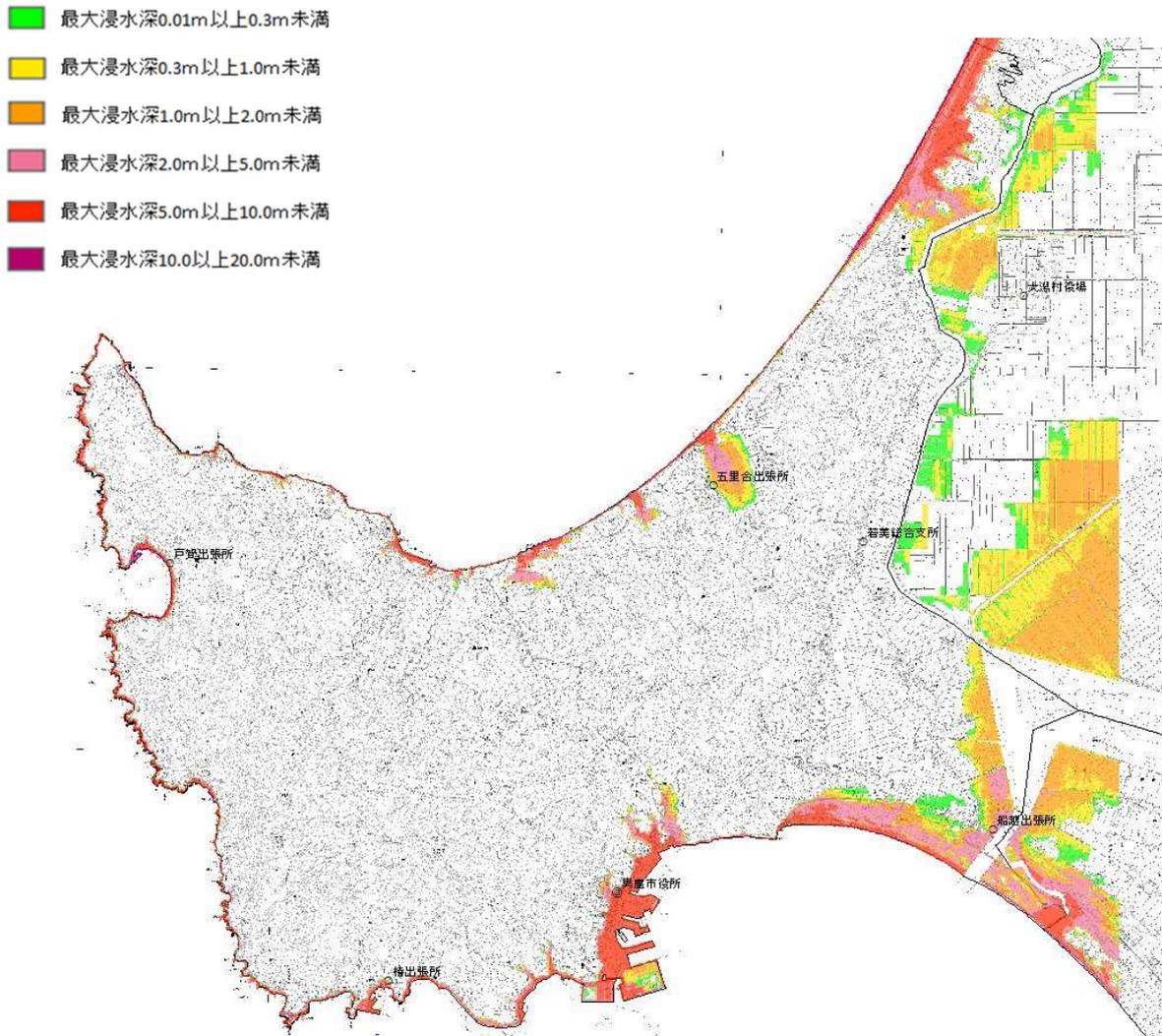
〔資料：市路線バスデータを加工〕

図. 路線バス運行路線

(6) 防災等

本市は、三方を日本海に面する特性から、津波浸水想定では、船川、脇本、船越、五里合、若美において最大浸水深が大きくなっています。

また、1983年（昭和58年）の日本海中部地震では、10mを超える津波が発生し、観光客、小学校の児童や教諭、釣り人、港湾関連者などを含む83名が亡くなっており、津波や高潮による浸水被害の発生が懸念される地域があります。



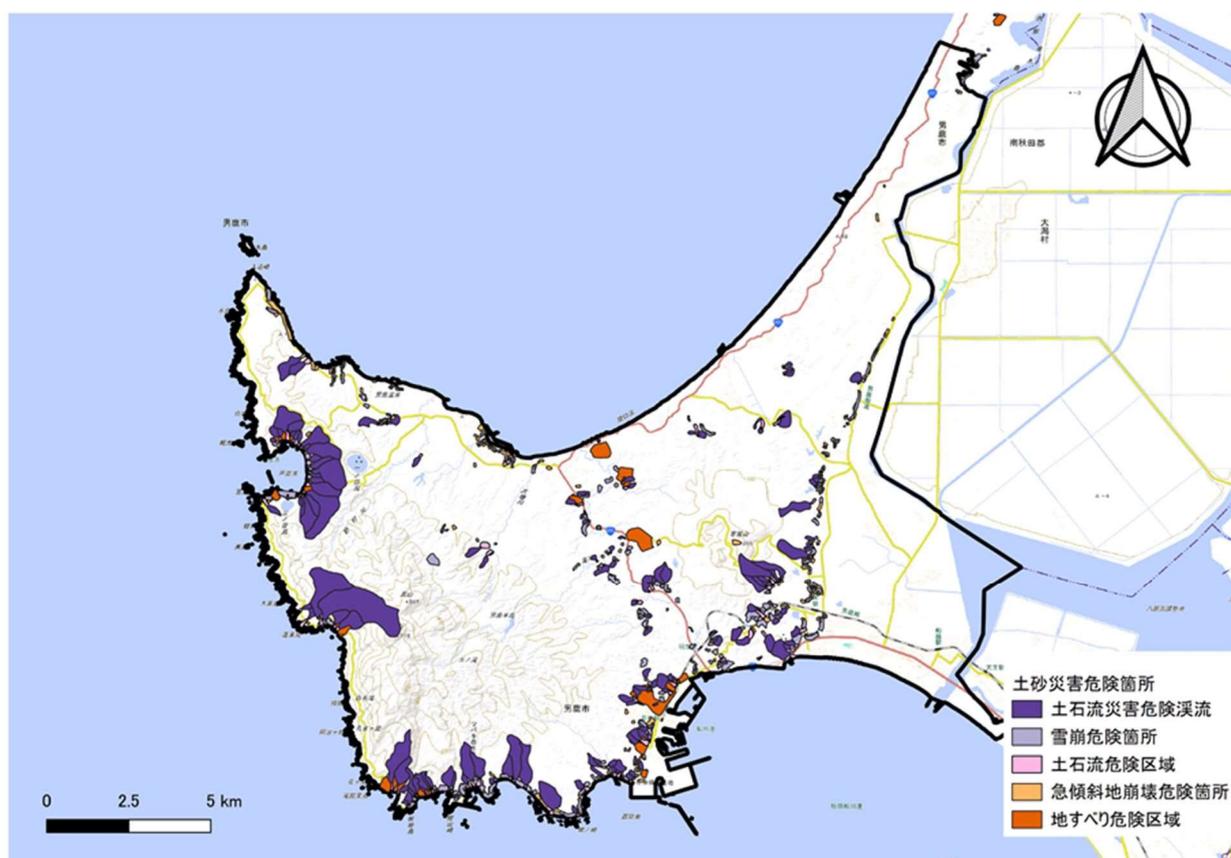
〔資料：男鹿市津波避難計画〕

図. 津波浸水想定

本市は、山岳丘陵地が多く、地形、地質上からがけ崩れ、土石流、地すべり等の被害が発生する可能性があるため、土砂災害危険箇所として指定されている地区もあります。

2023年（令和5年）の7月14日から15日にかけて、停滞した梅雨前線の影響で、本市は記録的な大雨に見舞われ、気象庁が設置する脇本の男鹿観測所で24時間雨量が観測史上最大の243.5mmを観測しました。土砂崩れや河川氾濫に伴う家屋、介護施設等建物への浸水、道路や農地、農業用施設の損壊に加え、茶臼峠において大規模な地滑りが発生、茶臼配水池への送水管が破損し、船川、椿、男鹿中地域における約4千戸で、大規模な断水が発生し、甚大な被害が発生しました。

本市では、各種の自然災害に対し、防災性を高めるために必要なハード整備のほか、避難行動を円滑にするための組織づくりや情報発信、意識啓発など、ソフト対策を合わせた総合的な取り組みが求められます。



〔資料：国土数値情報〕

図. 土砂災害危険箇所

(7) 地域資源

本市には、国指定の重要無形民俗文化財「男鹿のナマハゲ」（ユネスコ無形文化遺産）、「東湖八坂神社祭のトウニン（統人）行事」、史跡「脇本城跡」など多くの文化資源があります。また、男鹿半島の西北端の北緯 40 度線上に位置し、日本の灯台 50 選に選ばれた「入道崎」、芝生で覆われた山容と頂上から望む 360 度の風景を楽しむことができる「寒風山」などの貴重な地形は、国立公園や日本ジオパークとして認定されています。さらに、市内各地の多種多様なナマハゲ面を観覧できる「なまはげ館」や、男鹿のナマハゲの習俗を体験できる「男鹿真山伝承館」、「男鹿水族館 GAO」、「男鹿温泉郷」、「お山かけ」など観光資源が多く、各観光地の回遊性の向上に寄与する拠点として、男鹿駅周辺の整備が行われました。

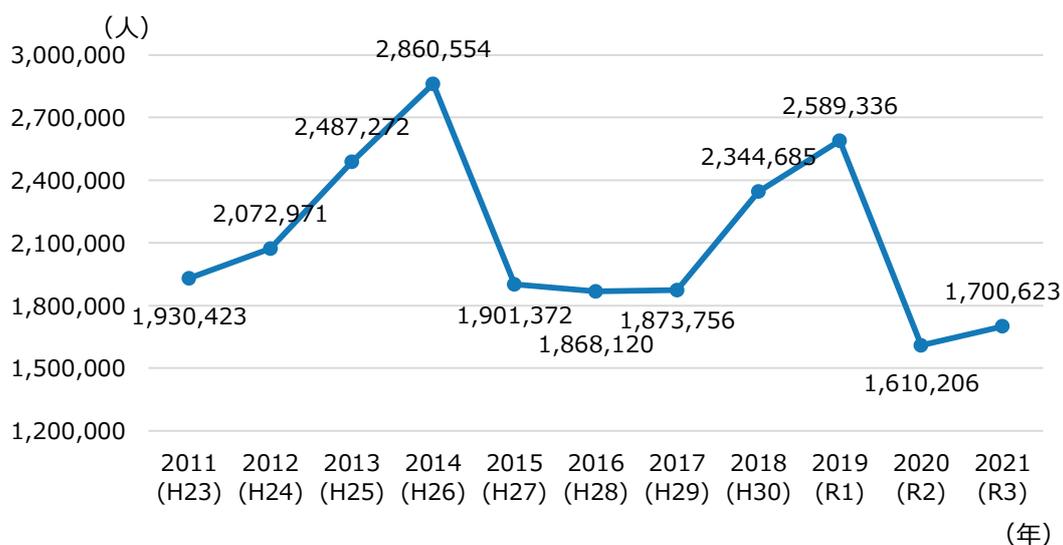
近年は、本市において再生可能エネルギーの導入・拡大に向けた目標を設定しており、洋上風力発電施設等も新たな地域資源として期待されています。

農業においては、男鹿梨や若美メロンなどのブランド化が見られます。

また、観光客数の推移をみると、2019 年（令和元年）には年間約 260 万人程度が訪れていたものの、新型コロナウイルスの影響により、約 170 万人程度まで減少しています。日帰り宿泊の内訳をみると、日帰り客数は回復してきましたが、宿泊客数は減少傾向にあることから、本市に点在する地域資源の更なる磨きあげを行い、回遊性を高め、滞在時間の延長を目指しながら、交流人口の回復・拡大に努めることが重要です。



〔資料：大潟ジオパーク HP、本市 HP〕



〔資料：市勢統計要覧〕

図. 観光客数の推移

表. 観光客数の推移

(単位：千人)

区分	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)
宿泊	136	129	126	116	117	83	72
日帰り	1,765	1,739	1,747	2,228	2,472	1,527	1,628

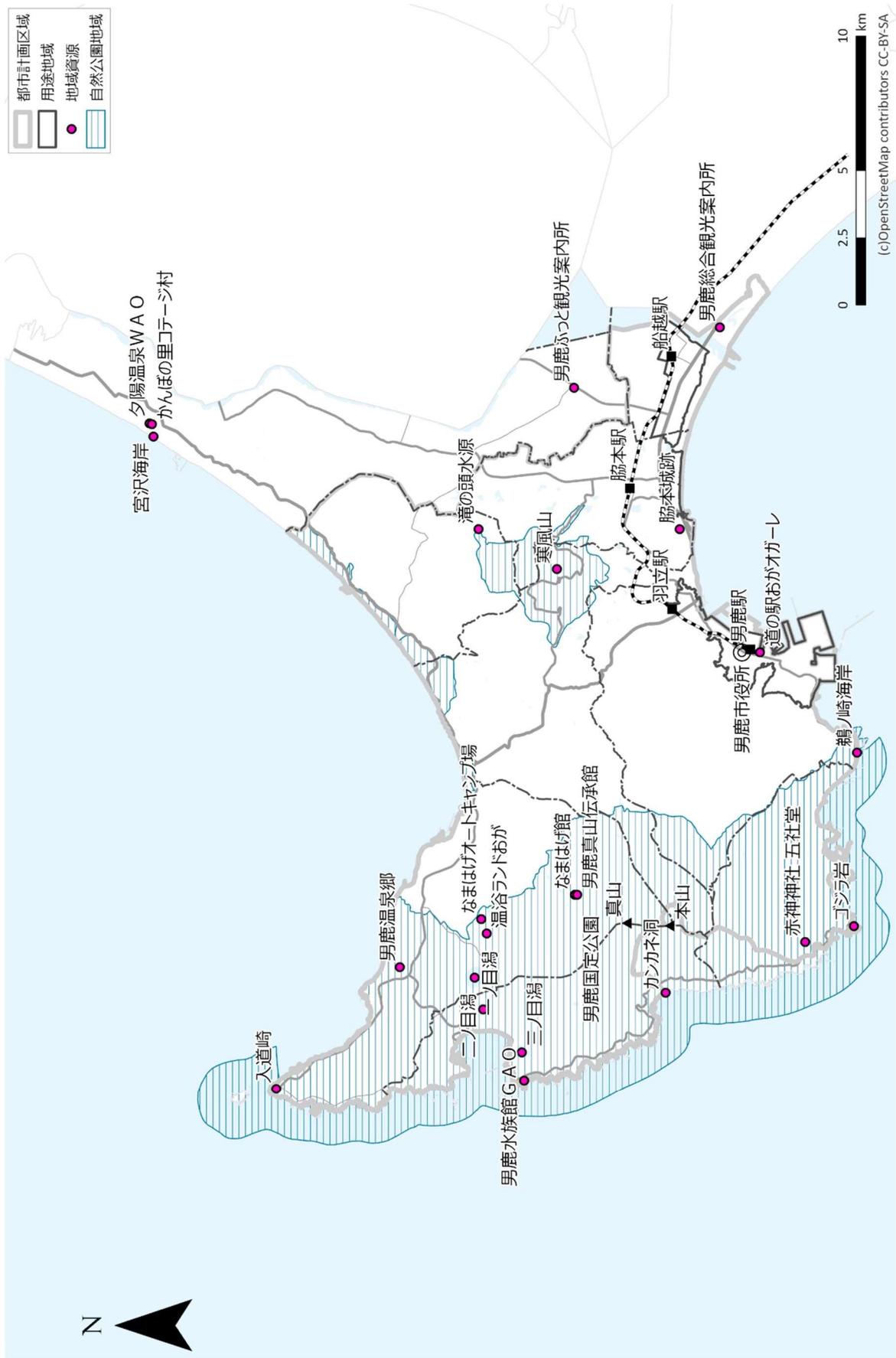
[資料：男鹿市総合計画]

表. 主な観光施設の利用者数

(単位：人)

施設名	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
男鹿水族館G A O	179,812	193,077	138,652	177,621
寒風山回転展望台	31,011	32,461	20,349	24,860
温浴ランドおが	66,227	64,735	46,506	44,069
なまはげ館	111,354	130,725	65,666	64,210
なまはげオートキャンプ場	7,144	9,295	5,942	7,150
夕陽温泉W A O	61,153	61,482	50,743	46,363
かんぼの里コテージ村	3,415	3,459	2,919	2,570
宮沢海岸オートキャンプ場	1,580	1,735	1,294	1,798
道の駅おがオガール	352,771	472,593	440,892	476,603

[資料：本市観光課]



〔資料：国土数値情報、本市 HP〕

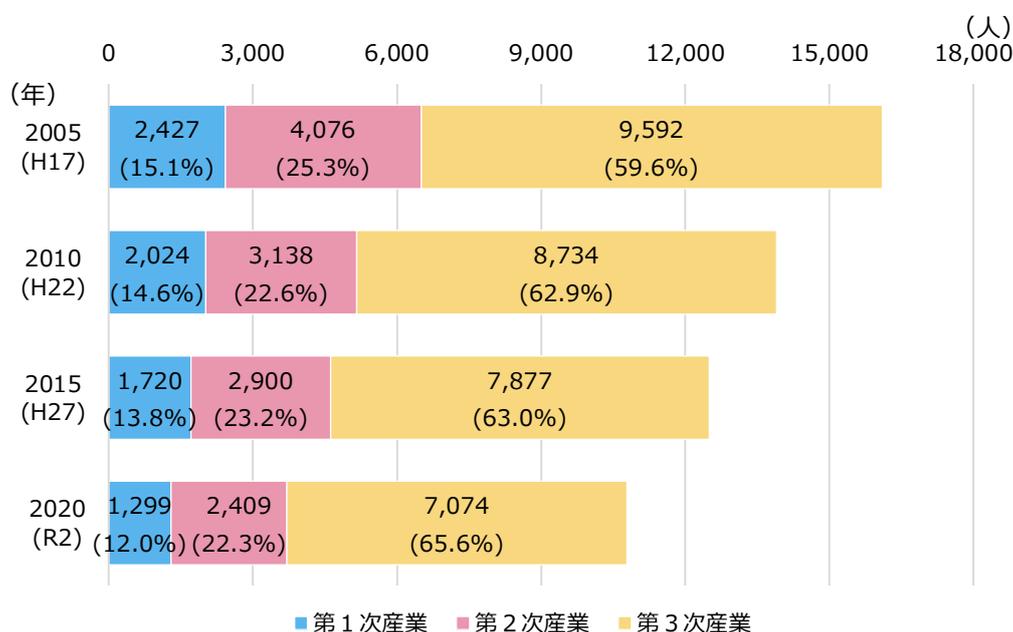
図. 地域資源の分布状況

(8) 産業・経済

本市の就労人口は減少傾向にあり、近年では第3次産業の占める就業割合がやや増加しています。雇用状況は、経済政策による景気回復に伴い改善傾向にありますが、有効求人倍率は県平均を下回っています。

今後も、人口減少・少子高齢化によって、地域産業（観光産業、農林水産業、商工業）の後継者不足などの傾向が続くことで、「産業・経済」活動への影響が懸念されます。

船川港港湾地区においては、企業誘致や「再生可能エネルギー・新エネルギー」等の産業活動の活発化が期待されています。また、男鹿駅周辺では更なる賑わいの創出、国道101号沿道では商業施設の誘導や居住環境の整備、集落・農地では農業法人化の促進を図るなど、雇用対策や産業活動の充実が求められています。



[資料：国勢調査]

図. 産業（大分類）別就業者数・構成比の推移

(9) 財政・市民

人口減少や少子高齢化の進行、社会情勢の変化に伴い、町内会などの住民自治組織では、役員の高齢化や地域活動の担い手不足が進んでいます。また、市民の生活意識や価値観が多様化し、心のふれあいや地域コミュニティの希薄化が懸念されます。

今後は、医療や福祉などの社会保障費の負担が増加するとともに、都市インフラの維持管理や更新費用の増加が予想されることから、適切な財政運営が必要です。

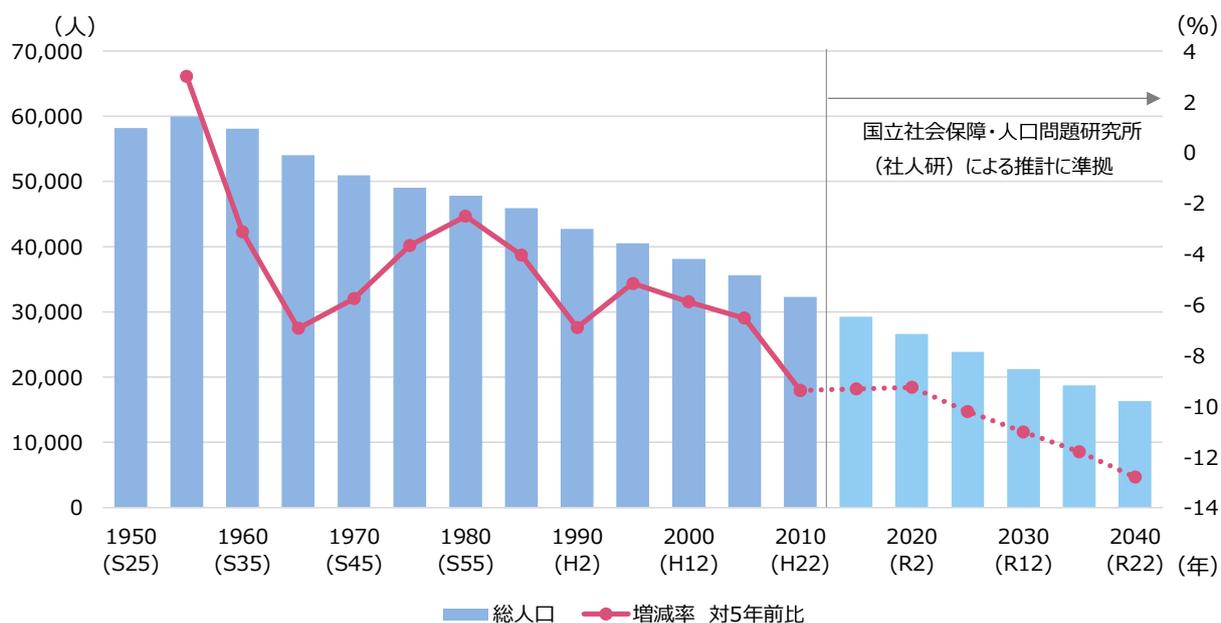
各地域コミュニティセンターの活用や、産学官金で連携した取組み、市民や民間事業者が主体となった活動への行政の後方支援など、多様な主体が情報を共有し、協働によるまちづくりを進める仕組みづくりが求められます。

2. 人口

本市の総人口は1955年（昭和30年）の59,955人をピークに減少を続け、2022年（令和4年）4月現在では25,246人とピーク時の半数以下になっています。

「男鹿市人口ビジョン」によると、人口減少の傾向は今後も続き、2030年（令和12年）には2万人台を維持するものの、2040年（令和22年）には、2万人を下回ると推計されます。

高齢化率は、2020年（令和2年）が47.7%であり、2040年（令和22年）には62.6%まで上昇することが予想されます。今後も、人口減少・少子高齢化は加速度的に進行することが予測されます。

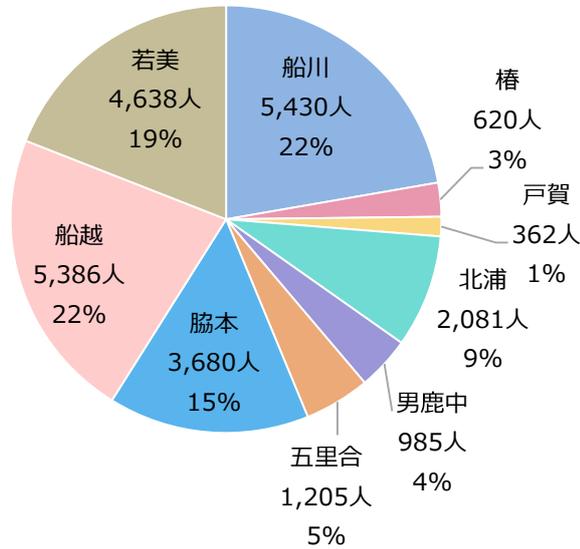


〔資料：男鹿市人口ビジョン〕

図. 人口の推移

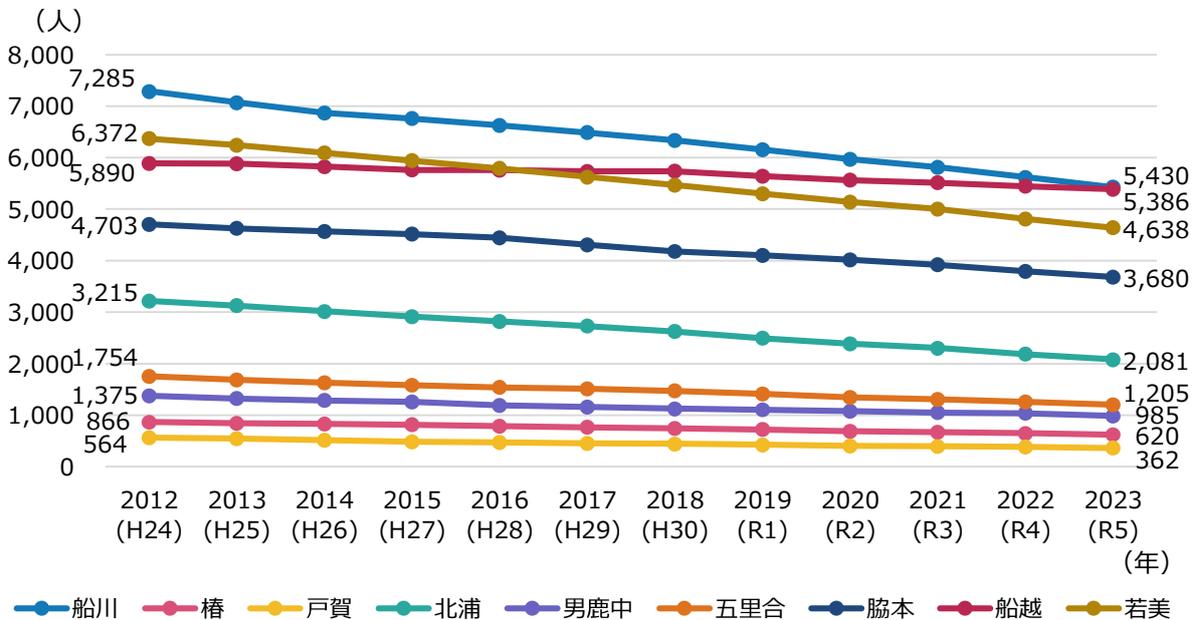
本市の総人口の約 6 割が船川地域、船越地域、若美地域に居住しています。

地域別人口は 2012 年（平成 24 年）以降、一貫して減少傾向にあります。2017 年（平成 29 年）には船越地域以外で約 1 割以上の減少、一部の地域では約 2 割減となっています。今後も、市街地の開発動向などから、このような傾向が続くことが予想されます。



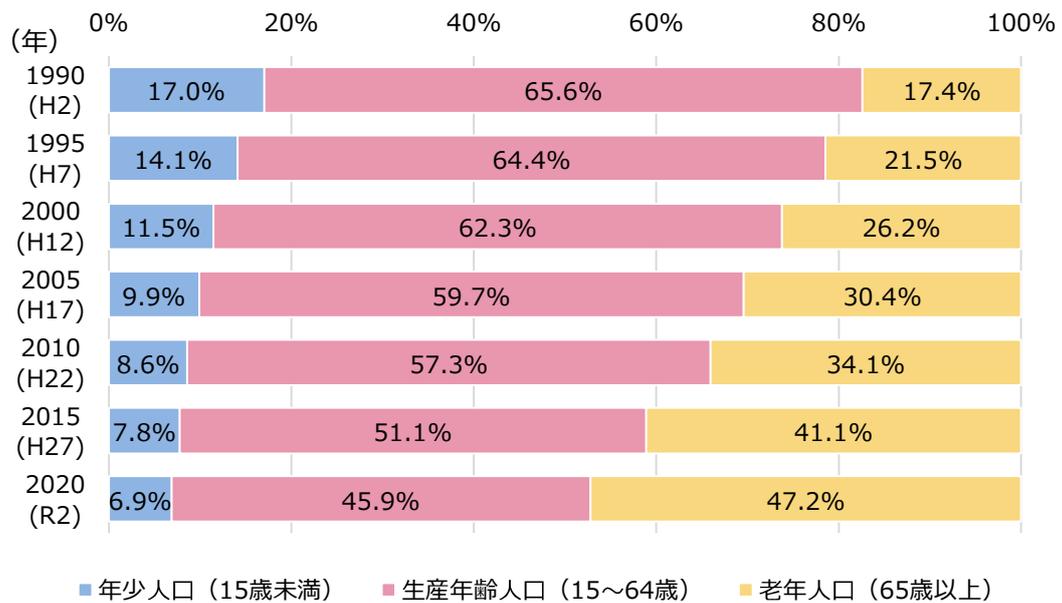
〔資料：本市 HP、2023 年（令和 5 年）5 月 31 日現在〕

図. 地域別人口構成



〔資料：本市 HP、2023 年（令和 5 年）5 月 31 日現在〕

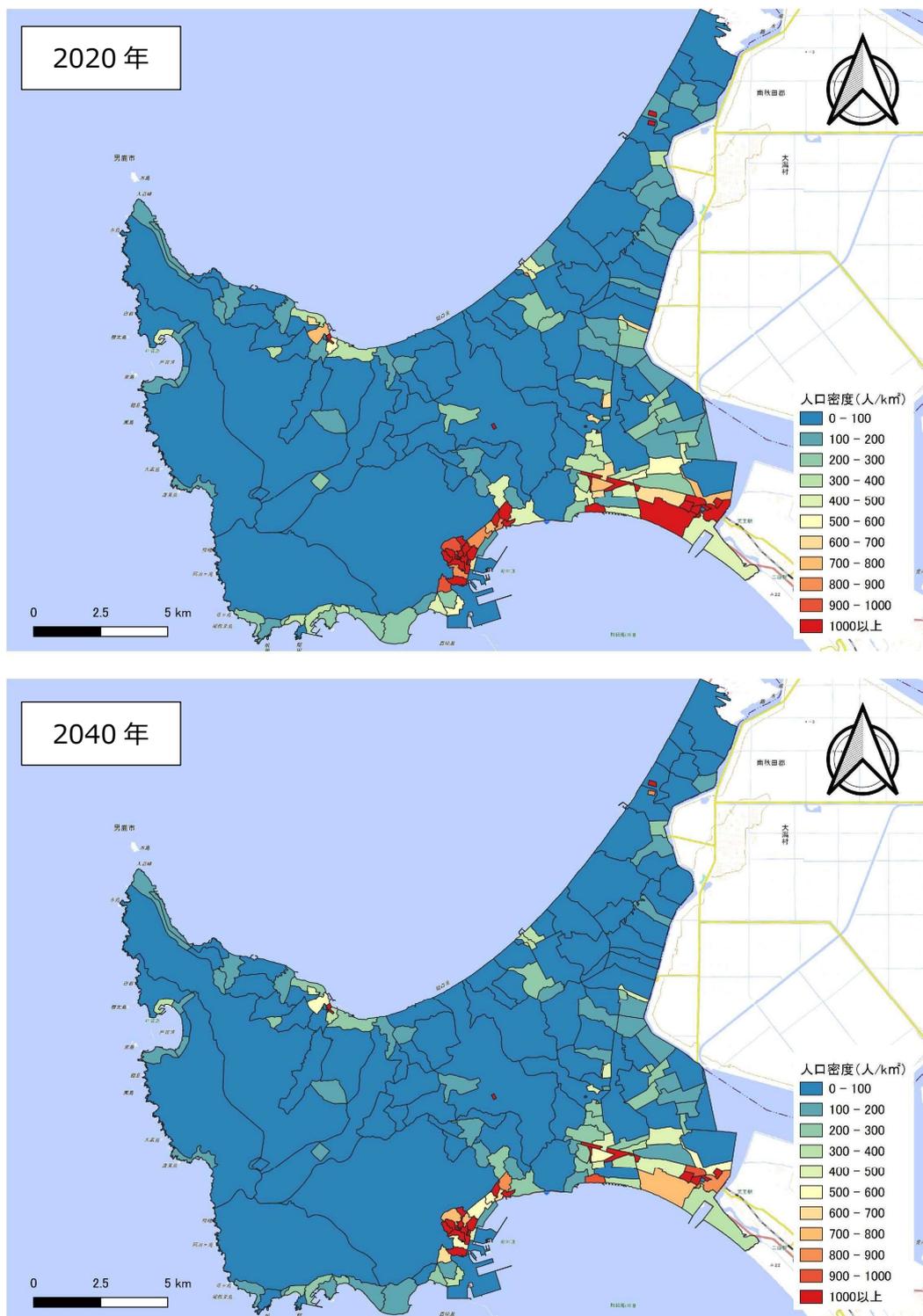
図. 地域別人口推移



[資料：国勢調査]

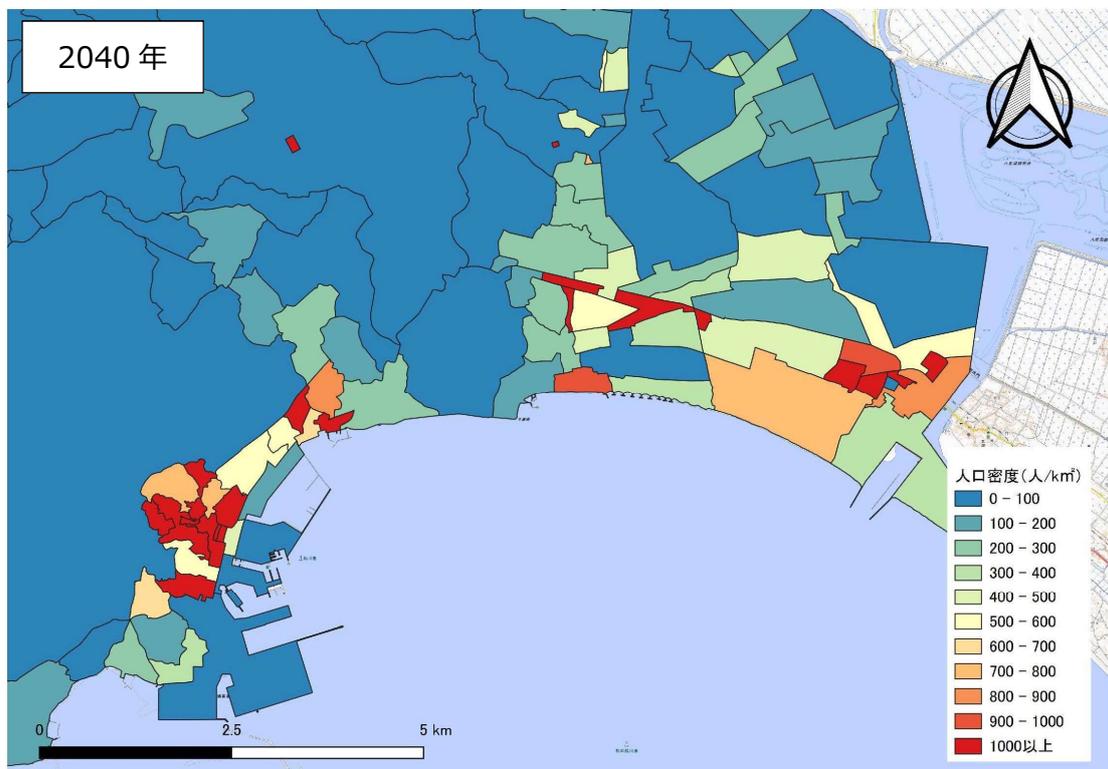
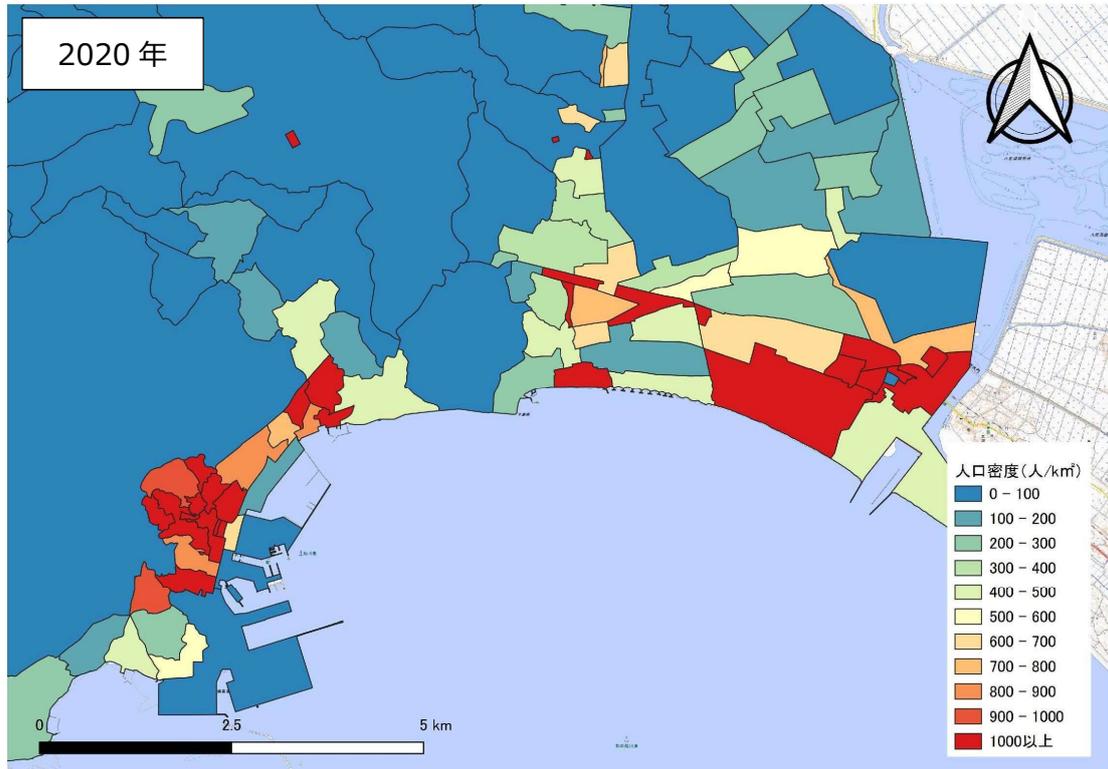
図. 年齢 3 区分別人口推移

鉄道駅の周辺に人口が集中しており、特に船川地域、船越地域への集積がみられます。
 今後は、人口減少下にあっても市民の日常生活を支えることのできる機能的な市街地形成や
 コミュニティの形成を図ることが必要です。



〔資料：国勢調査（2040年は2020年国勢調査結果を基に推計）〕

図. 人口密度



〔資料：国勢調査（2040年は2020年国勢調査結果を基に推計）〕

図. 人口密度（拡大）

3. 市民意向

(1) アンケート調査の目的

本アンケートは、市民の生活の実態やまちづくりに対する市民の評価や考え方を広く把握するために実施したものです。

アンケート調査は 18 歳以上の市民を対象とした「一般市民調査」と市内 2 校の高等学校に通学している市内在住の高校生を対象とした「高校生調査」の 2 種類を実施しました。

(2) アンケート調査の概要

表. アンケート調査実施状況

期間	令和 4 年 11 月 14 日～令和 4 年 11 月 28 日
対象	一般市民調査：2,020 人（男女無作為抽出） 高校生調査：126 人 計 2,146 人
回収	一般市民調査：762 通（回収率：37.7%） 高校生調査：110 通（回収率：87.3%） 計 872 通
配布・回収方法	一般市民調査：郵送による配布・回収 高校生調査：学校にて配布・回収

表. 調査内容

	設問	役割	取得した情報
1	回答者の属性	回答者の個別属性を把握する	・性別 ・年齢 ・居住地域 ・居住年数 ・職業 ・通勤通学先 ・住宅種類 ・世帯構成
2	日常生活について	道路交通や住環境について日常生活で感じる満足度や、今後必要な機能等を把握する	・道路、住環境等の満足度、重要度 ・地域に不足する施設の有無と種類 ・まちづくりの課題 ・地域の誇り
3	土地の使い方、都市基盤、都市防災について	各分野について、今後力を入れるべき取組み内容等を把握する	・住宅、商業地、農業地の在り方 ・道路、公園等の取組みの方向性 ・都市防災の取組みの方向性
4	今後のまちづくりについて	今後のまちづくりの方向性等を把握する	・今後のまちづくりの方向性 ・住み替え意向 ・まちづくり等への参加意向
5	自由回答	まちづくり等に関する意見等を把握する	—

(3) アンケート調査結果

表. 「住民アンケート」調査結果の概要

番号	視点	市民意向	
問 2	日常生活の満足度について	高い	・自然の豊かさ ・全体的な住みやすさ ・地域伝統文化の保全や活用
		低い	・娯楽、レジャー施設の充実度 ・地域活動への参加の機会 ・バスや鉄道などの公共交通機関の便利さ
問 3	男鹿市の住みやすさ	全体	・「住みよい」「まあ住みよい」が 52.3%を占める
		地域別	船川 50.0%、戸賀 56.3%、北浦 44.4%、男鹿中 37.5%、五里合 48.8%、脇本 49.9%、船越 66.5%、若美 46.8%の人が「住みよい」「まあ住みよい」を選択
問 4	日常生活で影響が生じると困る事	・スーパーなどの店舗の撤退 ・税負担の増加 ・社会保障費の増加 ・公共交通の減便、廃止	
問 5	地域文化への誇り	・「感じる」「とても感じる」が 55.9%を占める	
問 6	まちづくりの課題	・高齢化の進行 ・働く場所の不足 ・空き地、空き家、空き店舗の増加 ・公共交通の不便	
問 7	居住地域に不足する施設	ある	・「不足する施設がある」が 50.7%と最も多い
		具体例	・スーパーマーケット ・診療所、病院 ・飲食店、レストラン ・銀行、信用金庫等金融機関
問 8	今後の住宅地のあり方	・「空き地、空き家などへの対策」が 54.4%と最も多い	
問 9	商業地の集積地として望ましい場所	・「市街地における幹線道路沿い」が 47.7%と最も多い	
問 10	今後の農地の在り方	・「市街地の隣接地や幹線道路沿いであれば農地を他の用地に変えてもやむを得ない」が 69.9%と最も多い	
問 11	道路整備や交通について力を入れるべき取組み	・冬季の除雪、融雪 ・歩道の整備、バリアフリー化 ・公共交通手段の維持 ・生活道路の整備	
問 12	公共交通サービスへ期待する事項	・「市営バス等が運行していない地区でのデマンドタクシー等の運行」が 46.0%と最も多い	
問 13	公園や緑について整備や取組み	・災害時の避難所に活用できる公園や広場づくり ・休日に家族と過ごせる大きめの公園や緑地づくり ・道路、河川沿いの並木や街路樹の整備	
問 14	自然環境や景観についての整備や取組み	・住宅地周辺などの田園風景の保全 ・周辺の山林や水辺などの豊かな自然の保全 ・歴史的な景観や建造物の保全	
問 15	都市防災についての整備や取組み	・安全な避難場所（津波避難タワー、避難ビルを含む）の整備 ・がけ崩れや土砂災害への対策 ・大雨による河川の氾濫や浸水被害への対策（堤防、遊水池、排水機場等）	
問 16	将来の男鹿市の望ましいイメージ	・高齢者などが安心して暮らせる福祉が充実したまち ・観光・交流が盛んなまち ・子育て支援が充実したまち ・豊かな自然との調和がとれたまち	
問 17	住み替え意向	住み続けたい	・「今の場所に住み続けたい」が 62.3%と最も多い
		理由	・なじみや愛着がある ・治安が良い ・近所のつきあいがよい、友人が多い ・緑や自然環境が豊か
		移りたい理由	・買い物や飲食、娯楽等が不便 ・老後の生活が不安 ・公共交通の利便性が悪い ・医療や福祉などの日常生活が不便

番号	視点	市民意向
	住み替え意向	【他の市に住むとしたらどのような場所か】 ・日常的な買い物や飲食が便利なまち ・鉄道やバスを利用しやすいまち ・診療所や医院などの医療施設が充実したまち ・娯楽や交流施設が充実したまち
問 18	まちづくり活動に対する参加意向	・「協力を求められれば、できる範囲で参加したい」が 39.8%と最も多い

＜主なアンケート結果＞

■あなたの日常生活について（問 2）

日常生活の満足度・重要度

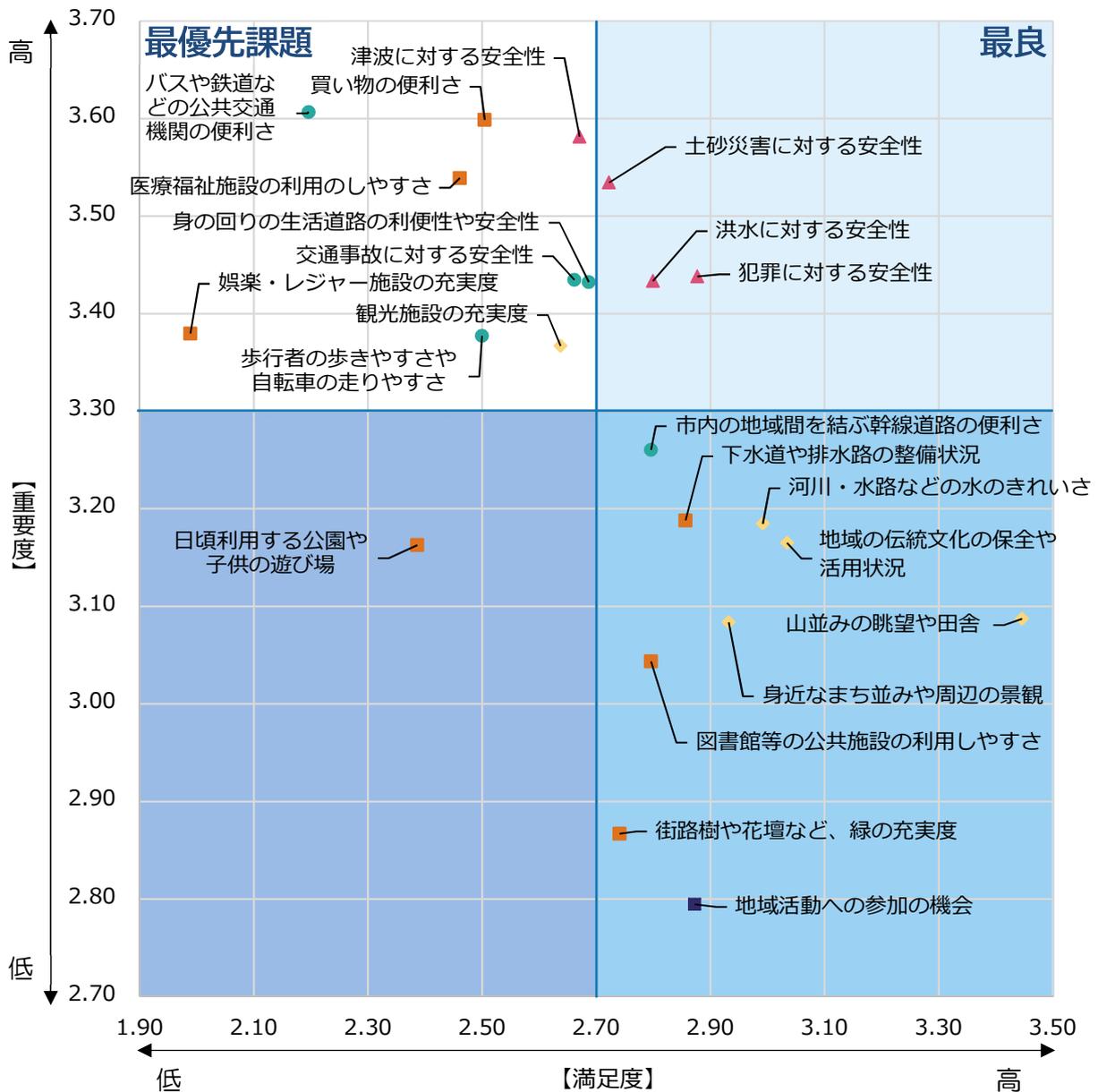


図. 日常生活の満足度・重要度

■まちづくりの課題（問6）

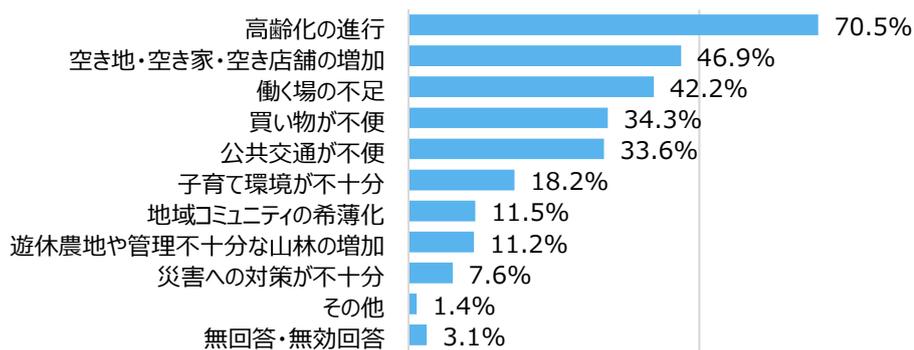


図. まちづくりの課題

■今後のまちづくりについて（問16）

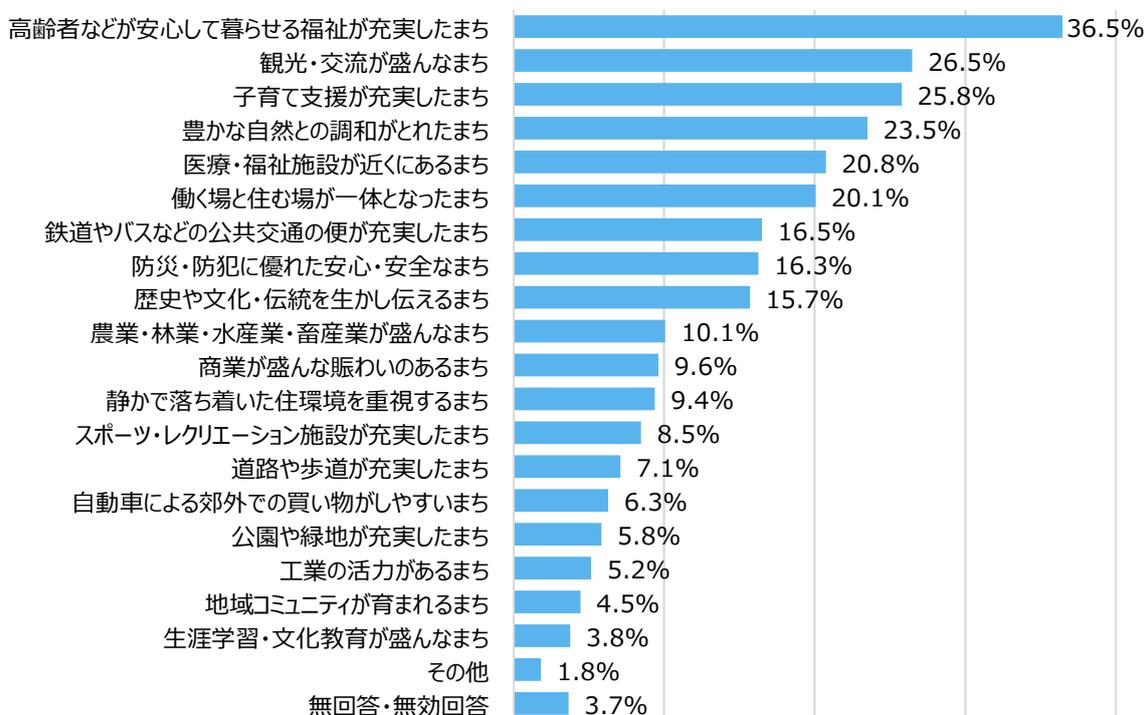


図. 将来の望む地域について

■まちづくりの推進に向けて（問18）

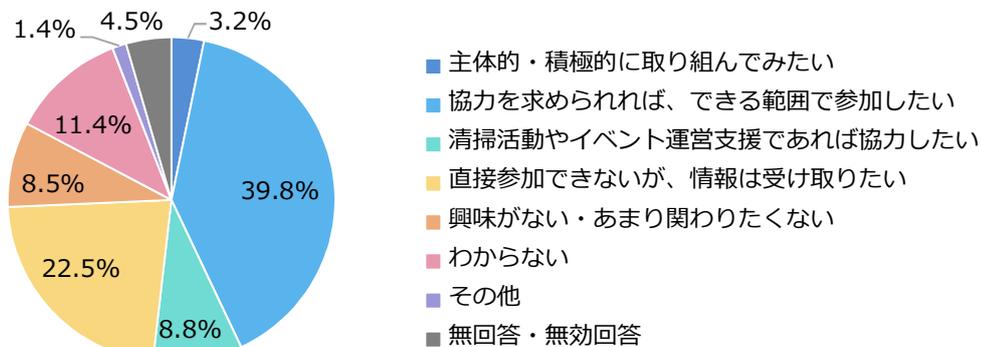


図. まちづくりの推進に向けて

4. 現行計画の評価・検証

4-1. 土地利用に係る基本方針

男鹿駅周辺の整備を行いました。景勝地の活用や船川港臨海部の再整備方針を示しました。

	【現行計画の概要】	【H17～現在までの実績】	達成・未達成の理由	次期計画の方向性												
1	<p>○商業・業務他</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 男鹿駅を中心に、船川地区を中心市街地と位置づけ、商業・業務機能の再構築を図る ● 船越・脇本地区の国道101号バイパス沿いは、今後も沿道型商業・業務地として適切に誘導し、機能の充実を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・(船川) H30.4:「道の駅おが・オガレ」の整備 ・(船川) R4.4: 男鹿駅周辺広場「男鹿アイランドパーク・ハブアゴー」の整備 ・(船川) 中心商店街の活性化に向けた取り組み ・(船越) R4: 国道101号沿いに複合商業施設「男鹿なまはげモール」の開業 	<ul style="list-style-type: none"> ・JRと一体での男鹿駅周辺整備への取り組み ・民間による開発の促進 ・ロードサイド型大規模店舗の出店やネット通販の普及等 ・人口減少、少子高齢化の進行 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き船川地域の既成市街地の賑わいの創出を促進 ・国道101号沿道の商業施設及び住宅の適切な誘導と機能の充実を図る 												
2	<p>○工業地・流通業務地</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 船川港湾を物流機能やエネルギー備蓄機能を担う重要港湾として位置づけ、港湾整備を推進 ● 船川港臨海地区等の弾力的な整備方針を検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・(船川) H14～R4: 事業所数・従業者数は減少しているが、製造出荷額は増加 ・(船川) H28.3: 太陽光発電施設整備 1,980kw ・(船越) H25.10: 太陽光発電施設整備 1,250kw ・(船川) R4.3: 「船川港港湾ビジョン」を策定 ・陸上風力発電(メガサイズのみ) (若美) 男鹿風力発電所 野石地区他 12基 28.8M (若美) 若美風力発電所 野石地区他 7基 19.95M (船越) 風の王国 船越地区 4基 7.48M 	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsなどの高まりによる再生可能エネルギー事業の進展 ・風力発電事業の進展等による港湾ビジョンの必要性の高まり 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き船川港湾地区の未利用地への企業誘致を推進 ・「船川港港湾ビジョン」の実現を目指した取り組みの推進 												
3	<p>○住宅地</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 船川地区や脇本地区は、都市防災上の観点より改善を図り、職住近接型の快適性・利便性に富んだ居住環境の形成に努める ● 船越地区は、今後とも良好な市街地形成と快適な居住環境の創出、開発行為制度の適切な指導に努める 	<ul style="list-style-type: none"> ・市営住宅整備 (船川)15戸、(船越)20戸 ・開発行為関係 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>規模 地域</th> <th>3000 ㎡未満</th> <th>3000 ㎡以上</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>船川</td> <td>3件</td> <td>2件</td> </tr> <tr> <td>脇本</td> <td>3件</td> <td>2件</td> </tr> <tr> <td>船越</td> <td>15件</td> <td>9件</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉施設 (船川) 3件 (脇本) 4件 (船越) 3件 ・(船越) 複合商業施設の開業等に伴う周辺の宅地開発の進行 	規模 地域	3000 ㎡未満	3000 ㎡以上	船川	3件	2件	脇本	3件	2件	船越	15件	9件	<ul style="list-style-type: none"> ・市民需要の高まり 	<ul style="list-style-type: none"> ・既成市街地及び開発による新たな住宅地の形成に対応した、良好な市街地形成と快適な居住環境の創出と開発行為制度の適切な指導に努める
規模 地域	3000 ㎡未満	3000 ㎡以上														
船川	3件	2件														
脇本	3件	2件														
船越	15件	9件														

	【現行計画の概要】	【H17～現在までの実績】	達成・未達成の理由	次期計画の方向性
4	<p>○景勝地</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 国定公園は、今後とも観光資源として保全を図りつつ、市民に快適と安らぎを与える財産の継承に努める ● 居住地区に近接し、今後、開発が見込まれるような場所においては秩序あるまちづくりを行うために地域地区の指定を検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・（北浦）H19：「一ノ目潟」が国指定の天然記念物に指定 ・（全体）H23：「男鹿半島・大潟ジオパーク」が日本ジオパークに認定 ・（全体）R4.3：「魅力ある寒風山ビジョン」を策定 ・追加での地域地区の指定なし 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光資源に対する市民意識の高まり ・市及び関係機関等による取組みの推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、自然景観の維持・保全に努める ・新たな開発に対応した、開発行為制度の適切な指導
5	<p>○市街地の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 船越地区は、適正な誘導のもと、商業・業務系と住居系、隣接する農業振興地域とのバランスの取れた土地利用を図る ● 船川地区は、空き地・空き店舗の有効活用、面的整備等も含め、土地の高度利用を図る 駅周辺は、駅舎等の整備により市街地に活力を呼び戻し、観光地に相応しい拠点整備を促す ● 船川港臨海部の土地利用と連動した整備計画のもと、停滞した中心市街地の活性化を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・（船川）H30.4：「男鹿駅」の移転・新築 ・（船川）H30.7：「道の駅おが・オガレ」の開業 ・（船川）R4.4：男鹿駅周辺広場「男鹿アイランドパーク・ハブアゴー」の整備 ・（船川）R4.4：旧男鹿駅舎、空き店舗をリノベーションし、酒蔵や飲食店等として活用 ・（全体）住宅総数 13,720 戸のうち空き家が 2,640 戸、空き家率は 19.2% 	<ul style="list-style-type: none"> ・JR と一体での男鹿駅周辺整備への取組み ・移住者による積極的な取組み ・空き地、空き家の活用や補助制度の周知 ・人口減少、少子高齢化の進行 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き船川地域の既成市街地への賑わい創出を促進 ・空き家、空き店舗の利活用、解体についての取組みを促進 ・新たな開発に対応した、開発行為制度の適切な指導
6	<p>○船川港臨海部の再整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 船川港臨海部は、引き続き港湾機能、物流機能の整備による産業振興を図り、市民のシンボルパーク等のレクリエーション機能充実、整備方針の見直しを行う ● 観光客の動向を市西部の景勝地だけでなく、男鹿中心部に誘客するための施策としてフィッシャーマンズワーフ（観光魚市場）をはじめとした船川港臨海部におけるマリーナシティとしての整備等も検討する 	<ul style="list-style-type: none"> ・「OGA マリンパーク」の整備 ・H25：「海フェスタ」の主会場 ・H30.7：「道の駅おが・オガレ」の整備 ・R2.5：津波避難タワーの整備 ・R3：公益財団法人日本海事広報協会より「海の日」モデル地区として認定 ・（全体）R4.3：「船川港港湾ビジョン」を策定 ・「男鹿日本海花火」の開催 ・「男鹿ナマハゲロックフェスティバル」の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・JR と一体での男鹿駅周辺整備への取組み ・交流人口増加に向けたイベントの開催 ・社会情勢に伴う経済活動の停滞 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、「港湾機能の強化、地場産業の振興、新エネルギー・再生可能エネルギー関連事業の誘致・支援、観光産業の活性化」などの取組みを推進
7	<p>○船川港臨海部の整備方針の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 船川港は、現在定められている用途地域や臨港地区の妥当性を照査し、効率的かつ効果的な土地利用を図るべく検討を進める 	<ul style="list-style-type: none"> ・（船川）H30.7：「道の駅おが・オガレ」の整備 ・（全体）R4.3：「船川港港湾ビジョン」を策定 	<ul style="list-style-type: none"> ・JR と一体での男鹿駅周辺整備への取組み ・風力発電事業の進展等による港湾ビジョンの必要性の高まり 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、現在の用途地域や臨港地区の妥当性を検証し、効率的かつ効果的な土地利用を検討

4-2. 道路・交通体系の整備に係る基本方針

国道 101 号の 4 車線化や百川バイパスを整備しました。また、地域公共交通網形成の策定や歩いて暮らせるまちづくりと地域コミュニティの強化に取り組めました。

	【現行計画の概要】	【H17～現在までの実績】	達成・未達成の理由	次期計画の方向性
1	<p>◇道路整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 市街地の骨格であり、市民生活や産業活動等の都市活動に直結する都市基盤である道路については、その役割ごとに区分し、役割に応じた整備方針を定め、体系的なネットワーク整備を図る 	<ul style="list-style-type: none"> (若美) H26.12：男鹿琴丘線に百川バイパスが開通 (全体) R1.11「男鹿市舗装修繕計画」を策定 (船川～脇本) ～R4：船川、脇本間の国道 101 号での 4 車線化 (全体) ～R4：半島地域特有の急坂の解消等の整備を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 周辺道路の整備状況や社会情勢に伴う必要性の変化 	<ul style="list-style-type: none"> 計画に基づく道路・橋梁の維持管理の推進 長期未着手の都市計画道路の見直しの検討
2	<p>◇公共施設・公共交通について</p> <ul style="list-style-type: none"> 市街地中心部の男鹿駅前、駅周辺の整備も踏まえ、駅前広場としての交通結節機能の充実、観光地としての魅力をアピールする観光情報発信施設としての整備の在り方を検討 駅前広場の整備と連動し、鉄道との連携強化を図りながら観光振興に直結させる 市民の日常的な移動手段となっているバスの交通は、効率的な運行体系の整備を図る必要があり関係機関との調整を図りながら検討 	<ul style="list-style-type: none"> (全体) H31.3：「男鹿市地域公共交通網形成計画」を整備 (全体) R2：路線バスの JR 男鹿線や他路線からの接続改善、接続ポイント変更を実施 (船川) H30.4：男鹿駅の移転・新築 (船川) H30.7：「道の駅おが・オガーレ」の開業 (船川) R4.4：男鹿駅周辺広場「男鹿アイランドパーク・ハブアゴー」の整備 (船川) 旧男鹿駅舎をリノベーション 	<ul style="list-style-type: none"> JR と一体での男鹿駅周辺整備への取り組み 公共交通分野における利便性向上への需要の高まり 	<ul style="list-style-type: none"> 市民ニーズを把握し適切な運営、サービスの提供に努める
3	<p>◇歩行者ネットワークの形成</p> <ul style="list-style-type: none"> 男鹿駅を中心とする旧市街地は、車を利用せずに街中に人を呼び込めるように「男鹿駅前～商店街」、「男鹿駅前～船川臨海部（男鹿みなと市民病院付近）」といったように男鹿駅を起点とした歩行者ネットワークを形成 回遊性の確保に努め、だれもが安心して気軽に歩け、中心市街地に賑わいと同時に安らぎや潤いが感じられる沿道環境の整備について検討 	<ul style="list-style-type: none"> (全体) 歩いて暮らせるまちづくりと地域コミュニティの強化への取り組み (全体) 道路、歩道を形成 	<ul style="list-style-type: none"> 男鹿駅周辺整備による、より良い歩行者ネットワークの形成 	<ul style="list-style-type: none"> 歩道や広場等の適切な維持管理 市民協働による美化活動等の促進

4-3. 自然環境の保全及び公園・緑地の整備方針

男鹿半島・大潟ジオパークが日本ジオパークに認定され、一ノ目潟が天然記念物に指定されました。また、魅力ある寒風山ビジョンを策定しました。

	【現行計画の概要】	【H17～現在までの実績】	達成・未達成の理由	次期計画の方向性
1	<p>◇国定公園をはじめとする自然環境の保全</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 本市は3方を海に囲まれ、美しい山々、湖等自然の恩恵を受け、東北地方においても有数の観光地として認知されており、今後とも観光資源としての自然環境の保全を行っていく必要がある ● これらの豊かな自然環境が居住する人々に与える潤いや安らぎは図り知れないものがある。そのため、今後ともこれらの自然環境の適切な保全を図りながら、レクリエーション機能として有効利用を積極的に行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・（北浦）H19：一ノ目潟が国指定の天然記念物に指定 ・（全体）H23：男鹿半島・大潟ジオパークが日本ジオパークに認定 ・（全体）R4.3：「魅力ある寒風山ビジョン」を策定 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境の保全に対する市民意識の高まり ・市及び関係機関等による取り組みの推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、自然環境の維持・保全に努める
2	<p>◇公園整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 現在、本市の一人当たりの公園面積は14.48㎡（H15.3）であり、国平均（8.50㎡-H14年度）を大きく上回っていますが、県平均（16.30㎡-H14年度）をやや下回る状況となっている。そのため、今後もレクリエーション機能の充実や防災機能の向上を図るといった観点から、目標値の達成を目指し、居住環境の形成と連動した計画的な公園整備を進める ● 一方で、既に都市計画決定されながら整備が進んでいない公園については見直しを図り、整備方針の検討を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・（全体）R3.3：市民一人当たりの都市公園面積は、23.3㎡ ・（全体）R3.3：県平均を大きく上回る ・（全体）R4：「男鹿市公園施設長寿命化計画」を改訂 	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少、少子高齢化等、社会情勢に伴う必要性の変化 	<ul style="list-style-type: none"> ・都市公園の適切な維持管理 ・長期未整備の都市公園の見直しの検討

4-4. 下水道及び河川の整備方針

市民生活を鑑み、汚水処理や雨水処理の維持・管理を進めてきました。

	【現行計画の概要】	【H17～現在までの実績】	達成・未達成の理由	次期計画の方向性
1	<p>◇汚水処理</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 公共下水道は、秋田湾・雄物川流域公共下水道（臨海処理区）の一処理区としての整備が進められているが、平成14年度末の普及率は40%となっており、秋田県内の平均とほぼ同等であるものの全国平均の65%を大きく下回っている。平成13年に策定された男鹿市生活排水処理基本計画に基づき、農業集落排水、漁業集落排水、浄化槽のそれぞれの事業と連携し、公共下水道の整備区域の拡大・普及率の向上に努める 	<ul style="list-style-type: none"> ・（全体）H26.3「男鹿市生活排水処理基本計画」を見直し ・（全体）H26.3「集合処理区域」と「個別処理区域」範囲を変更 ・（全体）R2:下水道の普及率は68%と秋田県内の平均とほぼ同等 ・（全体）R2:全国平均の79.7%を依然として下回っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会情勢に伴う必要性の変化 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、適切な維持、管理に努める
2	<p>◇雨水処理</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 都市下水路や雨水幹線の整備により浸水被害はおおむね抑制されてきたが、今後の土地利用の変化、市街地の形成の変化に対応し雨水幹線の整備を図る必要がある。また、船越ポンプ場や既設の雨水幹線の適切な維持管理に努め、施設の効率的、効果的な運用を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・（船越）H23.2：保量川排水区（開水路）や船越第5排水区（雨水ポンプ場）などを新設 ・必要に応じて施設の配置を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民生活を維持するうえで必要性が高かった 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、適切な維持管理に努める
3	<p>◇水環境整備について</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 山林等については涵養緑地として保全し、雨水流出に伴う水害等の自然災害の防止を図る ● 農業用水確保のためのため池は、農業水利施設としてのみならず、地域住民の憩いの場としての役割を担うことができる水辺空間として整備を進める ● 本市の河川は急峻な地形により急流河川が多くなっている。その影響で毎年のように融雪や大雨による水害が発生しており、今後とも治山事業や河川の改修等の治水事業を進める ● 水害からの市民生活を守る治水事業とあわせて、河川における遊歩道の設置等の親水性に富んだ河川空間の整備を検討し、豊かな都市内空間の形成を一役担うように努める 	<ul style="list-style-type: none"> ・（全体）R4.3：防災重点ため池のハザードマップを公開 ・（男鹿中）滝川河川改修 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民生活を維持するうえで必要性が高かった ・社会情勢に伴う必要性の変化 	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急性、必要性などについて適宜判断しながら、対応を検討

4-5. 公共公益施設の整備方針

既存の公共公益施設を適切に維持管理してきました。また、高齢者福祉を総合的に推進するため、「介護保険事業計画・高齢者福祉計画」を3年に1回見直ししてきました。

	【現行計画の概要】	【H17～現在までの実績】	達成・未達成の理由	次期計画の方向性
1	<p>◇公共公益施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 高齢化が進んでおり、医療・保健・福祉施設の需要が今後も増加されると思われる。そのため、これらの公共公益施設の整備にあたってはアクセシビリティ・利便性を第一に考え、すべての市民にやさしく利用しやすい施設計画、配置計画とするように努める 	<ul style="list-style-type: none"> ・（全体）高齢者福祉を総合的に推進するため、「男鹿市介護保険事業計画・高齢者福祉計画」を3年に1回見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少、少子高齢化等、社会情勢に伴う変化への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な医療・保健・福祉サービスの提供に努める

4-6. 安全で快適なまちづくりの方針

医療・福祉サービスの充実や、男鹿駅周辺の整備に伴う、生活環境の向上を進めてきました。また、木造住宅の耐震化率の向上による災害に強いまちづくり、地域防災計画に基づいた防災体制の強化、防災意識の啓発を行ってきました。

	【現行計画の概要】	【H17～現在までの実績】	達成・未達成の理由	次期計画の方向性
1	<p>◇医療・福祉サービスについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 今後、医療・福祉サービスの充実は今以上に求められる。しかし、本市は居住地区が市全域に点在しており、医療・福祉サービスが享受できる環境整備が遅れている。そのため、各居住地区を広域的に包括するボランティア活動の拠点整備とサービス活動のネットワーク化による体制整備を図り、誰もが快適に過ごすことのできる住環境づくりを行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・（全体）高齢者福祉を総合的に推進するため、「男鹿市介護保険事業計画・高齢者福祉計画」を3年に1回見直し ・（全体）H24：未就学児の入院と外来に対する医療助成を小学生まで拡大 ・（全体）福祉医療制度を高校生まで拡大 ・（船川）男鹿みなと市民病院と共催の「男鹿市民健康フェスタ」を定期開催 ・（北浦）サービス付き高齢者向け住宅ショートステイ、グループホーム、小規模多機能型等を整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民生活を維持するうえで必要性が高かった ・社会情勢に伴う必要性の変化 	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な医療・保健・福祉サービスの提供に努める

	【現行計画の概要】	【H17～現在までの実績】	達成・未達成の理由	次期計画の方向性
2	<p>◇生活環境の向上について</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 本市は市街地周辺を含み、豊かな自然環境に恵まれています。人々が生活する居住環境や街並み自体が“まち”として美しく、賑わいを感じさせる雰囲気醸し出しているとは言い難い状況にあります。そのため、生活環境の整備としての安全性や快適性はもちろんのこと、街全体の景観形成や各種公共施設におけるデザイン・利便性にわたる総合的な調整を図り、暮らす人々が心地よく、誇りを感じることができる環境づくりを目指す 	<ul style="list-style-type: none"> ・（船川）H30.4：男鹿駅の移転・新築 ・（船川）H30.7：「道の駅おが・オガーレ」の開業 ・（船川）R4.4：男鹿駅周辺広場「男鹿アイランドパーク・ハブアゴー」の整備 ・（船川）R4.4：旧男鹿駅舎、空き店舗をリノベーションし、酒蔵や飲食店等として活用 ・（船川）R4：産学官金のプロジェクトにより、既存の民間施設を活用した地域交流スペースやシェアオフィスを設置 ・（全体）R4：生鼻崎トンネルのナマハゲペイント、男鹿駅周辺広場の OGA HUB AGO のサイン、鵜ノ崎海岸の金属柱「UNOSAKI」の3つのモニュメントの設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・JRと一体での男鹿駅周辺整備への取組み ・観光資源に対する市民意識の高まり ・市及び関係機関等による取組みの推進 ・社会情勢に伴う必要性の変化 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全で快適な居住環境の確保と賑わいの創出等によるまちの活性化の促進
3	<p>◇災害に強いまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 木造住宅、狭小住宅が密集する旧市街地やその他の居住地区においては住宅の耐震性能の向上をはじめ、道路、公園整備による公共空き地の創出を検討し、延焼遮断機能、避難機能等の防災機能の充実に努める 	<ul style="list-style-type: none"> ・男鹿市耐震改修促進計画に基づく、木造住宅耐震診断支援等、耐震改修支援事業による木造住宅の耐震化の促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の災害に対する意識の高まり ・社会情勢に伴う必要性の変化 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、木造住宅の耐震化率向上に努める
4	<p>◇防災体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 建物の老朽化、雑居化等による火災災害に対応するため、消防体制の強化や防災体制の強化を図る必要がある。そのため、インターネット等を活用した防災情報ネットワーク化を図ると共に、災害時のボランティア活動の核となるNPO団体等の自営組織の設立を促し、防災体制の連携強化を図る ● 船川港湾には大規模な国家石油備蓄基地が立地しているため、災害や事故等の未然防止に努め、特殊災害に対する防災体制の確立を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> ・（全体）社会福祉法人「男鹿市社会福祉協議会」により災害ボランティアの登録を受け付け ・（全体）男鹿市HPで災害時のハザードマップを公開 ・（全体）H29.3：「男鹿市国土強靱化地域計画」を策定 ・（秋田県全域）R3.3：「秋田県石油コンビナート等防災計画」により予防対策及び応急対策等を実施 ・（全体）R4：「男鹿市地域防災計画」を策定・適宜修正 ・（全体）～R4：防災や災害に関する情報などを携帯電話やパソコンで受け取る「防災情報メール配信サービス」の開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災に対する市民意識の高まり ・地域や関係機関と一体での取組み 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域防災計画に基づく防災活動の実施

	【現行計画の概要】	【H17～現在までの実績】	達成・未達成の理由	次期計画の方向性
5	<p>◇防災意識の啓蒙</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地震時等の自然災害を想定した防災マップの作成、適正な避難経路の啓蒙活動を通じ市民の防災意識の向上を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・（全体）男鹿市HPで災害時のハザードマップを公開 ・（全体）～R4:防災や災害に関する情報などを携帯電話やパソコンで受け取る「防災情報メール配信サービス」の開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災に対する市民意識の高まり 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域防災計画に基づく防災活動の実施

4-7. 文化・観光資源、レクリエーション環境の整備方針

船川港を活かした観光拠点の創出や全市的な既存観光施設・スポットの再整備、歴史・文化施設の保全と交流活動、サインの設置を行いました。また、小中学校の統廃合を進めています。

	【現行計画の概要】	【H17～現在までの実績】	達成・未達成の理由	次期計画の方向性
1	<p>◇漁村を利用した交流・レクリエーション活動拠点の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 市西部に点在する漁村は、過疎化、高齢化により地域活力の低下を余儀なくされている。これらの漁村の観光資源と海洋性レクリエーション拠点としての潜在的ポテンシャルを最大限に活かし、交流・レクリエーション拠点としての整備を進め、都市との交流を推進する 	<ul style="list-style-type: none"> ・（増川）ゲストハウス男鹿（SUPと民宿） ・（鶴ノ崎）涉水産（カフェ） ・（戸賀）男鹿市ダイビングセンター ・（戸賀）SALT Beach（遊漁船と宿泊） ・（男鹿中）浜のそば 	<ul style="list-style-type: none"> ・民間活力による積極的な取り組み ・移住者の増加による地域の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ・集落地域の活性化に向けた活用方法を検討
2	<p>◇市街地における観光拠点の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 本市は自然に恵まれた観光資源が特徴な典型的な通過観光型の観光地となっており。そのため、未利用地が多く残る船川港臨海部をマリーナシティとして整備に努め、観光客を市街地に誘導することで中心市街地の活性化につなげる 	<ul style="list-style-type: none"> ・（船川）OGA マリンパークの整備 ・（船川）～R4 年：「男鹿日本海花火」の開催 ・（船川）H30.7：「道の駅おが・オガール」の開業 ・（船川）「男鹿ナマハゲロックフェスティバル」の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・JRと一体での男鹿駅周辺整備への取り組み ・市及び関係機関等による取り組みの推進 ・交流人口増加に向けたイベントの開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・男鹿駅周辺の効果的な運用と船川地域の既成市街地へのにぎわい創出を促進

	【現行計画の概要】	【H17～現在までの実績】	達成・未達成の理由	次期計画の方向性
3	<p>◇既存観光施設・スポットの再整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 豊かな自然に囲まれ、新鮮な海産物を堪能できる男鹿温泉郷は、滞在型観光地を形成している。今後はより多くの誘客が図られるよう温泉街ならではの情緒あふれる街並み景観の形成を図り、魅力的な観光スポットづくりに努めるほか、なまはげ館、温浴ランドおが、男鹿オートキャンプ場をはじめとした観光施設については、効率的な施設運営を図る ● 景観疎害要素になりがちな空き店舗・廃ホテル等の施設、未利用地については施設の有効活用、もしくは公園としての再整備等を検討し、賑わいのある温泉街づくりを目指す 	<ul style="list-style-type: none"> ・（船越）H19：「男鹿総合観光案内所」の開設 ・（北浦）男鹿温泉交流会館「五風」を活用し観光関連情報の提供や観光客受け入れ環境の充実 ・（戸賀）八望台展望台のリニューアル ・（全体）男鹿半島観光遊覧船「西海岸周遊クルーズ」 ・（北浦）死ぬまでに行きたい！世界の絶景「日本の絶景編」に北浦雲昌寺（あじさい寺）が選出 ・（北浦）H25.4：なまはげ館リニューアル、里暮らし体験塾を開設 	<ul style="list-style-type: none"> ・交流人口の増加による観光産業・経済活動の活性化を推進 ・地域資源を活かした民間による活動の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、温泉郷の景観形成の取り組みを促進し、各観光施設については効率的な運営に努める
4	<p>◇歴史・文化施設の保全と交流活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 真山神社、五社堂等の歴史的観光施設に対する保存体制の整備を検討する ● これら文化財だけでなく“なまはげ”等の地域の伝統文化を後世に継承していくため、なまはげ館の有効利用と文化的・歴史的交流施設の整備を推進し、高齢者等を積極的に登用したボランティアにより、本市の歴史・伝統文化の普及活動を通じ、他都市との交流を進める 	<ul style="list-style-type: none"> ・（全体）H30.11：ユネスコ無形文化遺産として「男鹿のナマハゲ」が登録 ・（北浦）H25.4：なまはげ館リニューアル、里暮らし体験塾を開設 ・（全体）R4.1：一般社団法人男鹿市観光協会 DMO 推進室が、全国のお祭り支援企業と包括連携協定を締結 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史、文化の保全に対する市民意識の高まり ・民間ボランティアによる積極的な取り組み ・伝統文化の継承と交流人口の増加に向けた取り組みの推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、歴史文化施設の保全と活用を図るとともに、普及活動を通じた他都市との交流を促進
5	<p>◇公共施設の再利用と再整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 統廃合された公共施設については、地域交流やレクリエーション等を目的とした交流施設として再整備を検討し、地区ごとの多様な交流活動拠点としての再利用に努める 	<ul style="list-style-type: none"> ・（五里合）H27：五里合市民センター（旧五里合小学校を改装） ・（脇本）H19.4：男鹿市歴史資料収蔵庫、男鹿市民俗資料収蔵庫（旧脇本第二小学校を改装） 	<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設の効率的かつ効果的な利活用の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、効率的かつ効果的な利活用を検討
6	<p>◇観光地ならではのサイン計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 本市全域に広がる各観光施設・スポットの整備とへ移行し、案内看板等をはじめとした各種サイン計画を街全体に効果的に実施し、観光地としてのホスピタリティ向上につなげる 	<ul style="list-style-type: none"> ・（全体）観光案内所等へのなまはげのモニュメントの設置 ・（全体）R4：生鼻崎トンネルのナマハゲペイント、男鹿駅周辺広場の OGA HUB AGO のサイン、鵜ノ崎海岸の金属柱「UNOSAKI」の 3 つのモニュメントの設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・交流人口の増加による観光産業・経済活動の活性化を推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・交流人口の増加に向けてニーズを把握しながら検討

5. 住民ワークショップの開催

5-1. 第1回ワークショップ

1) 開催概要

【日 時】令和4年10月22日（土） 10:00～12:00

【会 場】男鹿市総合体育館 サブアリーナ

【参加者】18名（男鹿市在住の市民）

【テーマ】男鹿市の伸ばすべき点、改善点について～「働く場所」「生活の環境」「まちの構成」～

【形 式】グループワーク形式

2) グループワーク

まちづくりの基本方針を定めるにあたり、男鹿市の伸ばすべき点、改善すべき点について意見交換を行いました。

男鹿市全体	良い点	<ul style="list-style-type: none"> ・寒風山、温泉郷など魅力的な観光地や自然がある。 ・継承していきたいと思える文化や伝統がある。 ・子育て支援が充実している。
	悪い点	<ul style="list-style-type: none"> ・寒風山、温泉郷、西海岸などの観光資源を活用し、観光客が長時間滞在できる仕組みづくりが必要。 ・大人、子どもともに集まれる場所、遊べる場所が少ない。 ・空き地や空き家、空き店舗の活用方法を考える必要がある。 ・公共施設が点在しているにもかかわらず、交通が不便。 ・道路をはじめとした公共施設の維持管理が滞っている。 ・人口が偏り、生活の利便性に差が生じている。
船越地区	良い点	<ul style="list-style-type: none"> ・他地区に比べ、お店や遊びの場が充実している。 ・若い人が集まり、男鹿なまはげモールなどの商業施設に賑わいがある。
	悪い点	<ul style="list-style-type: none"> ・都市の一極集中が進む。 ・住宅数が増えすぎて、町内会等の統率が取れない。 ・道路整備がおいついておらず、船越地区までの近道がない。 ・空き家が多いので、有効に活用する必要がある。
男鹿駅周辺	良い点	<ul style="list-style-type: none"> ・身近なところに子どもを預かってくれる施設があるなど、子育てしやすいコミュニティが形成されている。 ・駅周辺はキレイに整備されており、賑わいを生んでいる。 ・魅力あるお店が増えてきている。
	悪い点	<ul style="list-style-type: none"> ・駅前でのイベント参加者が気軽に泊まれるような場所が必要。



5-2. 第2回ワークショップ

1) 開催概要

【日 時】令和4年12月3日(土) 10:00~12:00

【会 場】男鹿市総合体育館 サブアリーナ

【参加者】12名(男鹿市在住の市民)

【テーマ】今後どのような取り組み案や活かし方があるかを話し合おう

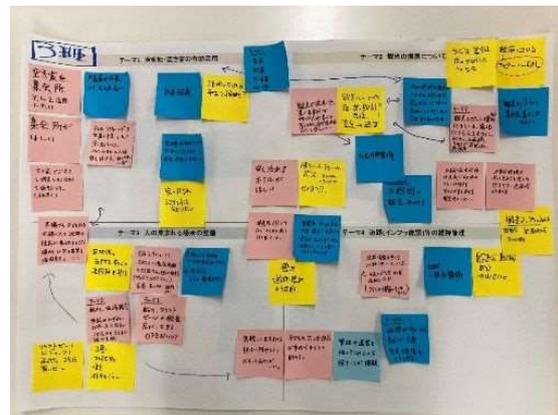
【形 式】グループワーク形式

2) グループワーク

第1回目で出された意見を踏まえ、4つのテーマを定めて意見交換を行いました。

- ①空き地・空き家の有効活用 ②観光の振興
③人の集まれる場所の整備 ④道路(インフラ施設)等の維持管理

①空き地・空き家	意見	<ul style="list-style-type: none"> ・人が集まれる場所として整備、活用が必要。 ・取り壊しやリノベーション等にかかる費用等補助が必要。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家バンクの周知徹底や、情報提供方法の工夫が課題。
②観光の振興	意見	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びに来た人が安い料金で気軽に泊まれるような施設が必要。 ・道路や駐車場の整備、観光拠点を置くことで滞在時間を延ばし経済へ反映させる必要がある。 ・観光地や文化、伝統について歩きながら回れるようなツアーを企画・PRして、男鹿へ遊びに来てほしい。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・観光客の滞在時間が短い。有料の観光拠点の整備や、気軽に泊まれる宿泊施設の整備などが今後の課題。
③人の集まれる場所	意見	<ul style="list-style-type: none"> ・若者の雇用先などを増やす必要がある。 ・男鹿駅前の更なる機能拡充と施設整備や企業誘致が必要。 ・休憩所を整備し、各地域の中心地では生活に必要なお店などを集約、複合化を進め利便性を向上させる必要がある。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・男鹿駅周辺の広場などでイベントの開催が活発になっていることから、観光ネットワークの強化などが今後の課題。
④道路等の維持管理	意見	<ul style="list-style-type: none"> ・観光客を迎えることを前提とした道路構成や、手入れが必要。 ・優先順位を付けながら適切な管理が必要。 ・バスやタクシーが少ないので、地域の公共交通の維持が必要。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・住民のニーズを把握し適切な優先順位付けによる道路の維持管理と、効率的な道路整備が今後の課題。



5-3. 第3回ワークショップ

1) 開催概要

- 【日 時】令和5年5月27日(土) 10:00~12:00
- 【会 場】男鹿市総合体育館 サブアリーナ
- 【参加者】30名(本市在住の市民)
- 【テーマ】地域の宝を見つけ、未来を考えよう!
- 【形 式】グループワーク形式

2) グループワーク

地域別構想を定めるにあたり、地域ごとのグループに分かれ、「地域の『いいな』、『気になる』」、「20年後、自分が住む地域をどんなまちにしたいか」について意見交換をしました。意見交換後は、地域の将来像についての発表も行いました。

船川	他にはない魅力「海岸線、身近な自然などなど」手を加えて、もっと活かす。そのために、みんなで話し合う。
船川 椿	住む人を増やすには、働く場を増やす。住む人も来る人も増やす。 人を増やすために住む人・来る人の両面から→ブランド化・インフラ整備
戸賀・加茂 北浦	<ul style="list-style-type: none"> ・観光資源が豊かなので、より良くするために滞在型の観光へ変える。 ・漁業の後継者不足、ハタハタの漁獲高が減っている。 ・スーパーや病院が遠いので、ネットスーパーやみなと病院への送迎、旧中学校ヘドクターヘリが止まれるようにするなどできると良い。
男鹿中	中心地や高台で、津波の不安がなく、集まって暮らせるまち！！
五里合	自然や景観を活かし、今いる人・地域コミュニティの力で、豊かな人生を送れるまちに！！
脇本	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史、自然(山、海、城跡)を活かす →パワースポット等をSNSでPR ・お茶っ子サロンを各地域に広げ地域住民の絆と生きがいづくりにつなげる →住みやすい街づくり・空き家の利活用
船越	自然はかわらずゆたかで道路は歩きやすく、買い物がしやすい…そんなすてきな船越になってほしいです。
若美	空地・空き家の有効活用/人口維持・環境を整備し町のコンパクト化へ/自然を活かして観光資源へ/地域のつながり維持/交通手段の充実/だれでもどこでも自由に農業(漁業)/安心して老後を迎えることができる/海、山の幸を取れるイベントツアーを!!/セカンドライフを楽しむ/海のものやまのもの、若い人に受け継ぐ



発表まとめシート

私達が考える地域の将来像は…

自然や景観を活かし、
今いる人・地域コミュニティの力で、
豊かな人生を送れるまちに！！

地区名: 五里合

5-4. 第4回ワークショップ

1) 開催概要

【日 時】令和5年8月26日(土) 10:00~12:00

【会 場】男鹿市役所 5階 大会議室

【参加者】22名(本市在住の市民)

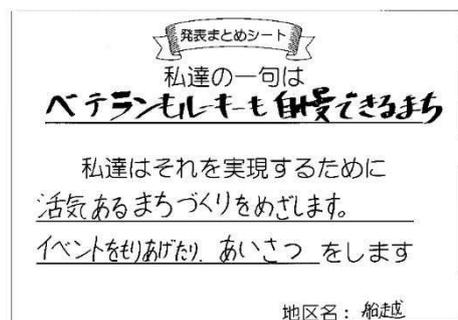
【テーマ】地域の将来像に向けて、私たちにできることを考えよう!

【形 式】グループワーク形式

2) グループワーク

第3回目での意見交換を踏まえ、「こんな地域にしたい」、「将来に向けてできること」を考えました。意見交換後は、俳句風に考えた地域の将来像や、自分たちにできることについての発表も行いました。

船川	「町おこし まずは草刈り これですよ」 ➡男鹿の入り口としてウェルカムの気持ちを表す ➡町内会のそうじに参加する
椿	「旅人よ こぞりて椿の 民となれ」 ➡フォトスポットや釣りスポット情報の提供 ➡地域のゴミ拾いで景観向上
戸賀・加茂	「戸賀湾で 見て釣って食す 海の幸」 ➡海水浴場などのクリーンアップなど環境整備 ➡宿泊サービスやイベント実施などの声かけをする
北浦	「北浦で ストレスフリーの 田舎ぐらし」 ➡環境美化のため観光地や地域のゴミ拾いをする ➡情報発信や観光客への積極的な声掛けなどをする
男鹿中	「景色良く 人も仲良く 楽しい集落」 ➡夏祭りや敬老会、山菜等の採取と販売などの継続
五里合	「五里合の コミュニティカで 楽しい人生」 ➡地域のイベントに積極的に参加 ➡五里合の農業(中間管理機構と農業法人)に関心を持つ
脇本	「脇本は 世代間交流出来る 宝の城下町」 ➡お茶っ子サロンの開催場所を増やしたい ➡海・山・城の環境整備
船越	「ベテランもルーキーも自慢できるまち」 ➡イベントを盛り上げ、活気あるまちへ
若美	「生かそうよ 若美の資源 ブランド化」 ➡私たちがわかみを深掘りし、わかみを大好きに



6. 都市の課題

分類	課題	現状・将来見通し
人口減少 少子高齢化 コミュニティ	①人口減少・少子高齢化 社会における市街地の機能 や活力の維持	<ul style="list-style-type: none"> ● 総人口はピーク時の半分以下となっており、人口減少・少子高齢化の進行が予測されます。 ● 「子育て環境日本一」を目指し、移住定住の促進や、人口減少下にあっても市民の日常生活を支えることのできる、機能的な市街地形成やコミュニティの形成を図ることが求められます。
土地利用	②空き地・空き家や空き店舗等への対応	<ul style="list-style-type: none"> ● 人口減少・少子高齢化に伴い、空き地・空き家や空き店舗等の低未利用な土地や建物が増加しており、一部においてリノベーションなどの能動的な利活用が見られます。 ● 良好な市街地環境を維持・保全するため、適切な土地や建物の管理、必要に応じた土地利用の転換等を図り、居住環境を保全していくことが求められます。
	③地域実情に即した 適切な土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ● 豊かな自然は、観光振興、景観、レクリエーションなど、多様な機能を有しています。本市の貴重な資源として継続的な保全・活用に努めていくことが求められます。 ● 船川港では使用されていない1 ha を超える産業用地が点在しており、継続した企業誘致活動や有効活用を模索・検討することが求められます。
都市機能	④住民が快適に生活できる 都市機能の維持	<ul style="list-style-type: none"> ● 既成市街地における人口の減少にともない、生活サービス水準の低下が懸念されます。特に、日用品や食料の購入、医療や教育の提供、産業や就業の場の確保といった、住民が生活するために必要な都市機能を維持していくことが求められます。
産業・経済	⑤地域における産業・経済 の維持及び活性化	<ul style="list-style-type: none"> ● 人口減少・少子高齢化によって、地域産業（観光産業、農林水産業、商工業）の後継者不足などの問題が生じています。 ● 今後の事業継続や地域産業の活性化、洋上風力発電の推進にあたり、新たな担い手の確保や雇用機会の創出・拡大などに向けた適切な土地の利用や確保等に努めることが求められます。
都市交通	⑥公共交通ネットワーク の維持・存続	<ul style="list-style-type: none"> ● 人口減少にともない公共交通（鉄道、バス）の利用者数は年々減少しており、路線廃止や運行本数減少等が懸念されます。一方、高齢者の運転免許返納の増加などにより、通院や買い物など、日常の移動手段としての公共交通の需要が高まることが想定されます。このため、公共交通の維持管理や存続に向けたさらなる取組みが求められます。 ● 本市の中心を国道 101 号が縦貫しており、市内内の4車線化やトンネルの新設など、自動車交通の利便性やアクセス性の向上が図られており、今後も適切な維持管理を行うことが求められます。

分類	課題	現状・将来見通し
都市計画 施設	⑦都市インフラの 計画的な維持管理、更新	<ul style="list-style-type: none"> ● 長期未着手の都市計画道路や都市計画公園については、本市の現状や将来を踏まえ、都市計画施設の見直し検討を進めることが求められます。 ● 整備済みの道路や公園等の都市計画施設は、その機能を存続していくため、計画的な維持管理を行うことが求められます。 ● ガスや上下水道等の都市インフラは、各施設において老朽化が進行しています。コスト縮減を図りながら計画的な維持管理及び更新が求められます。
防災・防犯	⑧誰もが安心して 暮らせる環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ● 本市は、三方を日本海に面し、寒風山などの景勝地が多く、豊かな自然に恵まれています。一方で、自然災害の発生リスクが高い地域も多くあります。そのため、各種の自然災害に対し、防災性を高めるために必要なハード整備のほか、避難行動を円滑にするための組織づくりや情報発信、意識啓発など、ソフト対策を合わせた総合的な取組みを進めていくことが求められます。 ● 地域などでの防犯性向上が求められます。
地域資源	⑨地域における固有資源 の維持管理、更なる活用	<ul style="list-style-type: none"> ● 国指定の重要無形民俗文化財「男鹿のナマハゲ」(ユネスコ無形文化遺産)、「東湖八坂神社祭 のトウニン(統人) 行事」、史跡「脇本城跡」など数多くの文化資源があります。また、美しい自然景観や貴重な地形は国定公園や日本ジオパークに認定されています。これらの地域固有の資源や景観を磨きあげ、後継者を育成しながら、未来に継承し、交流人口の拡大に努めることが求められます。 ● 男鹿駅周辺を拠点として、各地域の観光スポットの周遊性向上や体験型メニューの充実を図り、通過型から滞在型観光地への転換が求められます。
財政・市民	⑩社会的コストの縮減と 効率的な財政運営	<ul style="list-style-type: none"> ● 人口減少・少子高齢化により、医療や福祉などの社会保障費の負担が増加予測されることから、今後も適切な財政運営が求められます。 ● 船川を除く 8 地域に各々地域コミュニティセンターが設置され、地域の拠点となることが期待されています。市役所がある船川には市立図書館、市民ふれあいプラザ、文化会館などの文化施設が集積しています。 ● 学校等の都市施設の維持管理、更新費用の増加が予想されることから、コストの縮減を目指すことが求められます。
	⑪市民協働による まちづくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ● 産学官金が連携した取組みや、市民や民間事業者、行政が情報を共有し、協働によるまちづくりを進める仕組みづくりが求められます。